預言者伝（スィーラ）

第 10 巻

ウフドの戦い

勝利の後の試練：服従・忍耐・殉教者たち



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 10 巻

ウフドの戦い

勝利の後の試練：服従・忍耐・殉教者たち — クルアーンと真正なハディースに基づいて

وَلَا تَهِنُوا۟ وَلَا تَحْزَنُوا۟ وَأَنتُمُ ٱلْأَعْلَوْنَ إِن كُنتُم مُّؤْمِنِينَ

「それで気力を失ったり、また絶望してはならない。あなたがたが信者ならば、必ず勝利を得るのである。」

イムラーン家章 3:139

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

ウフドにおいてしもべたちを試みてその心を清め、彼らの中から殉教者たちを選ばれたアッラーに讃えあれ。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

『預言者伝（スィーラ）』第 10 巻は、ウフドの戦いを語ります。弓兵への命令、試練へと変わった序盤の勝利、アッラーの使徒 ﷺ を守った教友たち、そして天使に覆われた殉教者たちです。この知識が「役に立つ知識（イルムン・ユンタファウ・ビヒ）」となりますように。

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には、人間も動物も描かれていません。描かれているのは、**夕暮れのウフド山**です。そびえ立つ赤褐色の岩山の前に**小さな丘**があり、その麓には**静かな砂の平原**、端にはナツメヤシの木々が見えます。空では、夕日の金色の光がやわらかな**雲**を突き抜けています。

その山はウフドです。アッラーの使徒 ﷺ は「これは私たちを愛し、私たちも愛する山である」と言われました（『サヒーフ・ブハーリー』4083）。小さな丘は「弓兵の丘」と、持ち場を離れるなという命令を思い起こさせます。静かな平原は、主の御許で生きている殉教者たちの安らぎを表しています（イムラーン家章 3:169）。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

ウフドの戦い — はじめに

1. バドルの後：クライシュ族の復讐心 — イムラーン家章 3:140

2. 夢と協議 — 『サヒーフ・ブハーリー』4081

3. アブドゥッラー・ブン・ウバイの離脱 — 『サヒーフ・ブハーリー』4050

4. 怯みかけた二つの集団 — イムラーン家章 3:122

5. 丘の上の弓兵たち — 『サヒーフ・ブハーリー』4043

6. アブー・ドゥジャーナの剣 — 『サヒーフ・ムスリム』2470

7. アッラーの獅子ハムザ — 『サヒーフ・ブハーリー』4072

8. 序盤の勝利と試練 — イムラーン家章 3:152

9. 背後からの叫び — 『サヒーフ・ブハーリー』4065

10. 「ムハンマドは殺された！」 — イムラーン家章 3:144

11. ウフドの向こうの楽園の香り — 『サヒーフ・ブハーリー』4048

12. 砦で囲まれたアッラーの使徒ﷺ — 『サヒーフ・ブハーリー』4064

13. 「射よ、サアドよ！」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4055

14. 傷を負われたアッラーの使徒ﷺ — 『サヒーフ・ブハーリー』4075

15. 悲しみの後のまどろみ — イムラーン家章 3:154

16. 丘の上のアブー・スフヤーン — 『サヒーフ・ブハーリー』4043

17. ムスアブ・ブン・ウマイル — 『サヒーフ・ブハーリー』4047

18. 殉教者たちの埋葬 — 『サヒーフ・ブハーリー』1343

19. ジャービルの父と天使の陰 — 『サヒーフ・ブハーリー』1244

20. ウフドの戦場の女性たち — 『サヒーフ・ブハーリー』2881

21. ハムラー・アル＝アサド — 『サヒーフ・ブハーリー』4077

22. 「ウフドは私たちを愛する」 — 『サヒーフ・ブハーリー』4083

23. ウフドの物語の典拠 — 図；表

24. 戦いを望んだ若者と障害のある者 — 『サヒーフ・ブハーリー』2664；『ムスナド・アフマド』22553

25. ウフドの殉教者たち — 表；ハンザラ、ウサイリム、サアド・ブン・アッ＝ラビーウ

26. 戒めと赦し — イムラーン家章 3:152、155；『サヒーフ・ブハーリー』4066

27. 今日のウフド山と弓兵の丘 — 地理と墓参の作法

28. ヒジュラ暦 3 年シャウワール月の年表 — 表

29. ウフドの戦いについてよくある質問 — 12 の質問

30. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

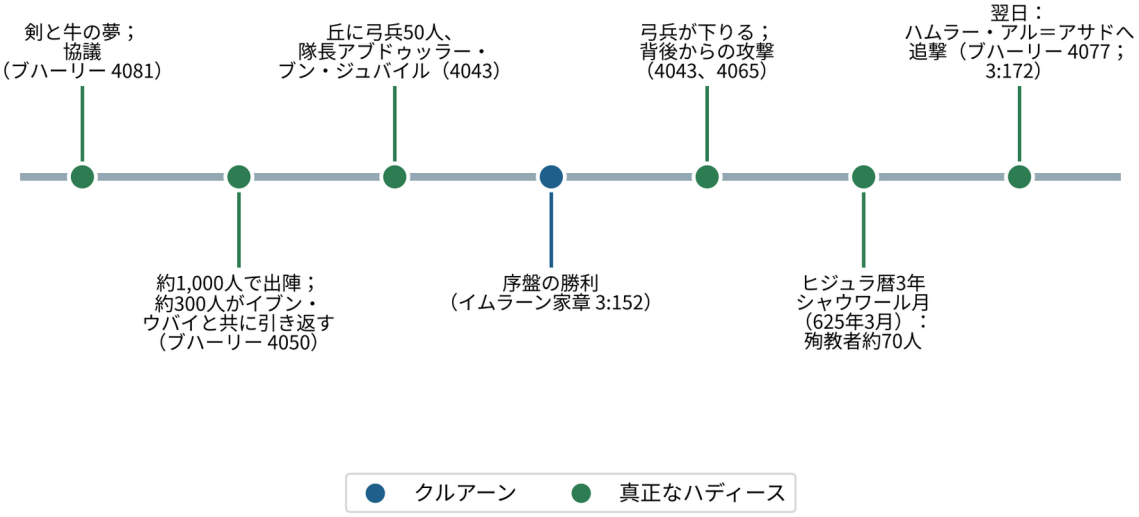
色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

ウフドの戦い

『預言者伝』第 9 巻は、バドルでの大勝利――「フルカーン（識別）の日」――で終わりました。その一年後、**ヒジュラ暦 3 年シャウワール月**に、クライシュ族は復讐のために三千人の軍勢で再びやって来ました。マディーナの北にある**ウフド山**の麓で、ムスリムはまったく異なる試練を経験します。悲しみへと変わった勝利です。

クルアーンは**イムラーン家章**のおよそ六十の節でウフドを語り、真正なハディースはその場面を記録しています。弓兵への命令、背後からの叫び、楽園の香りをかいだアナス・ブン・アン＝ナドル、胸を盾にしたアブー・タルハ、そしてアッラーの使徒 ﷺ の顔の傷です。

ウフドの戦いの年表（ヒジュラ暦3年シャウワール月）



日付：有名な説はシャウワール月15日、7日とする典拠もある（ウィキペディア「Battle of Uhud」）。

図 1：ウフドの戦いの年表。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。スィーラ書からの情報は茶色の「スィーラの注」の枠に入れ、歴史的事実には出典のリンクを付している。

バドルの後：クライシュ族の復讐心

バドルでの敗北は、クライシュ族に深い傷を残しました。アブー・ジャフル、ウマイヤ・ブン・ハラフ、ウトバ、シャイバなど、多くの指導者が殺されたのです。マッカの指導権は**アブー・スフヤーン・ブン・ハルブ**に移り、彼は復讐を誓いました。

スィーラの注：クライシュ族の準備

スィーラ書によれば、バドルの前に無事に帰り着いたアブー・スフヤーンの隊商の利益は、新たな戦いの**費用に充てられました**。クライシュ族は同盟者と共におよそ**三千**人の兵を集め、士気を高めるために女性たちも連れて来ました。その中には、父、叔父、兄弟をバドルで失った**ヒンド・ビント・ウトバ**もいました。

イブン・カスィールは、一部の初期の学者が、アッラーの道を妨げるために財を費やす不信仰者についての戦利品章 8:36 を、ウフドのためのクライシュ族の出費に関するものと考えたと述べています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』ウフドの戦いの章；『タフスィール・イブン・カスィール』8:36。https://tafsir.app/ibn-katheer/8/36

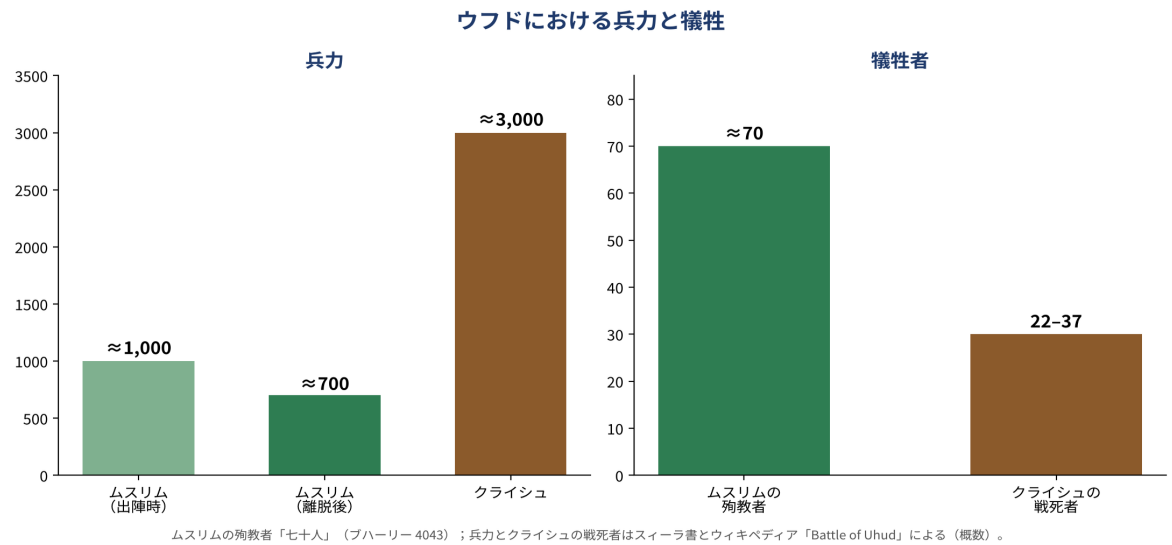


図 2：ウフドにおける両軍の兵力と犠牲（概数）。

アッラーはその後、起こったことの英知を明らかにされました。「**もしあなたがたが（ウフドで）傷を負ったのなら、あの民（多神教徒）も同じような傷を負ったのである**」『タフスィール・イブン・カスィール』3:140。

ウフドはどこにあるのか？

ウフドは、**マディーナの北**にある長い岩山の連なりで、預言者のモスクから数キロメートルの所にあります。クライシュ軍はマディーナの農地に近い、その山の麓の平原に陣を張りました。この地形により、アッラーの使徒 ﷺ は山をムスリム軍の**背後の守り**とすることができました。

教訓：勝利は永遠の安全を保証するものではありません。バドルの後、ムスリムは**より重い試練**に備えなければなりませんでした。日々は人々の間で**巡り変わる**ものだからです。

夢と協議

クライシュ軍接近の知らせがマディーナに届くと、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちに、ご自身が見た夢を語られました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4081 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ الْعَلاَءِ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ بُرَيْدِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ جَدِّهِ أَبِي بُرْدَةَ، عَنْ أَبِي مُوسَى ـ رضى الله عنه ـ أُرَى عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ رَأَيْتُ فِي رُؤْيَايَ أَنِّي هَزَزْتُ سَيْفًا فَانْقَطَعَ صَدْرُهُ، فَإِذَا هُوَ مَا أُصِيبَ مِنَ الْمُؤْمِنِينَ يَوْمَ أُحُدٍ، ثُمَّ هَزَزْتُهُ أُخْرَى فَعَادَ أَحْسَنَ مَا كَانَ، فَإِذَا هُوَ مَا جَاءَ بِهِ اللَّهُ مِنَ الْفَتْحِ وَاجْتِمَاعِ الْمُؤْمِنِينَ، وَرَأَيْتُ فِيهَا بَقَرًا وَاللَّهُ خَيْرٌ، فَإِذَا هُمُ الْمُؤْمِنُونَ يَوْمَ أُحُدٍ.

訳：

アブー・ムーサー رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。「**私は夢で一振りの剣を振ったところ、その刃先が折れた。それはウフドの日に信仰者たちを襲った災難である。もう一度振ると、剣は以前よりも良くなった。それはアッラーがもたらされた（マッカの）開放と信仰者たちの団結である。また私は夢で牛たちを見た。アッラー（の定め）は善である。それはウフドの日の（殉教した）信仰者たちである。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・アル＝アラー ← アブー・ウサーマ ← ブライド・ブン・アブドゥッラー・ブン・アビー・ブルダ ← 祖父 アブー・ブルダ ← アブー・ムーサー・アル＝アシュアリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4081 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4081

スィーラの注：堅固な鎧

『**ムスナド・アフマド**』とスィーラ書の伝承では、預言者は夢の中で**堅固な鎧**に手を入れ、それを**マディーナ**と解釈されました。一部の伝承では、剣の刃こぼれは預言者の家族の一人が殺されることと解釈されたとされ、ハムザがウフドで倒れました。

この夢のために、預言者はマディーナの中で守ることに傾いておられました。

参照：

『ムスナド・アフマド』；イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』。

協議：守るか、打って出るか？

スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ は教友たちと**協議**されました。預言者は**マディーナの中で守る**ことに傾いておられ、アブドゥッラー・ブン・ウバイも同じ意見でした。しかし多くの教友、特にバドルに参加できなかった**若者たち**は、出陣して敵に立ち向かうよう強く求めました。

スィーラの注：「預言者にふさわしくない……」

預言者は多数意見を受け入れ、家に入り、**鎧を身に着けて**出て来られました。教友たちが強く求めたことを悔やみ、守りに留まろうと申し出ると、預言者はこう言われました。**「鎧を身に着けた預言者が、アッラーが（彼と敵の間を）裁かれるまでそれを脱ぐことはふさわしくない。」**

この言葉は、イマーム・ブハーリーが正しさの堅持の書で**タアリーク**（完全な伝承経路なし）として挙げており、『ムスナド・アフマド』とスィーラ書には伝承経路付きで伝えられています。

参照：

『サヒーフ・ブハーリー』正しさの堅持の書（タアリーク）；イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの後、多数意見が悲しみをもたらしたにもかかわらず、アッラーは預言者になお命じられました。「**そして物事については彼らと協議せよ**」『タフスィール・イブン・カスィール』3:159。

教訓：結果が望みどおりでなくても、**シューラー（協議）**は基盤であり続けます。決意した後、指導者は**揺るがず**、アッラーに委ねるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブドゥッラー・ブン・ウバイの離脱

アッラーの使徒 ﷺ は約**千**人と共に出陣されました。途中で**アブドゥッラー・ブン・ウバイ**が約**三百**人の支持者――軍のほぼ三分の一――を連れて引き返しました。自分の意見が採用されなかったことが理由でした（スィーラ書）。ザイド・ブン・サービト رضى الله عنه はその影響をこう語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4050 番

حَدَّثَنَا أَبُو الْوَلِيدِ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، عَنْ عَدِيِّ بْنِ ثَابِتٍ، سَمِعْتُ عَبْدَ اللَّهِ بْنَ يَزِيدَ، يُحَدِّثُ عَنْ زَيْدِ بْنِ ثَابِتٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا خَرَجَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم إِلَى أُحُدٍ، رَجَعَ نَاسٌ مِمَّنْ خَرَجَ مَعَهُ، وَكَانَ أَصْحَابُ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم فِرْقَتَيْنِ، فِرْقَةً تَقُولُ نُقَاتِلُهُمْ. وَفِرْقَةً تَقُولُ لاَ نُقَاتِلُهُمْ. فَنَزَلَتْ {فَمَا لَكُمْ فِي الْمُنَافِقِينَ فِئَتَيْنِ وَاللَّهُ أَرْكَسَهُمْ بِمَا كَسَبُوا} وَقَالَ إِنَّهَا طَيْبَةُ تَنْفِي الذُّنُوبَ كَمَا تَنْفِي النَّارُ خَبَثَ الْفِضَّةِ.

訳：

ザイド・ブン・サービト رضى الله عنه は言いました。**預言者 ﷺ がウフドへ出陣された時、共に出た人々の一部が引き返した。預言者 ﷺ の教友たちは二つに分かれた。一方は「彼らと戦おう」と言い、もう一方は「彼らとは戦わない」と言った。** そこで次の節が啓示された。**「偽信者たちについて、あなたがたが二派に分かれるのはどうしたことか。アッラーは彼らが稼いだことのために、彼らを（不信仰へ）逆戻りさせたのである」**（女性章 4:88）。そして預言者は言われた。**「それ（マディーナ）はターイバである。火が銀の錆を取り除くように、罪を取り除く。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・アル＝ワリード ← シュウバ ← アディー・ブン・サービト ← アブドゥッラー・ブン・ヤズィード ← ザイド・ブン・サービト رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4050 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4050

この重大な時の離脱は、ムスリムの**士気をくじく**ためのものでしたが、同時に**隊列をふるいにかける**ことにもなりました。教訓：真理は従う人の数で測られるものではありません。

怯みかけた二つの集団

イブン・ウバイの離脱は、アンサールの二つの部族を揺るがしかけました。アッラーはその瞬間をこう語られます。

「あなたが早朝、家族のもとを出て、信仰者たちを戦いの持ち場に配置した時を思い起こせ」『タフスィール・イブン・カスィール』3:121。

「あなたがたのうちの二つの集団が怯みかけた時のこと。だがアッラーは彼らの守護者であった」『タフスィール・イブン・カスィール』3:122。

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は言いました。**「この節は私たち――サラマ族とハーリサ族――について啓示された。私はそれが啓示されなければよかったとは思わない。アッラーが『アッラーは彼らの守護者であった』と言われたからである。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4051）。

ジャービルは、自分の部族の弱さに触れる節を恥じませんでした。その節がアッラーこそ彼らの守護者であると述べていることを**喜んだ**のです。教訓：心に浮かんだ恐れが人を偽信者にするわけではありません。**背を向けず**、アッラーに委ね続ける限りは。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

丘の上の弓兵たち

アッラーの使徒 ﷺ は、**ウフド山を背に**する形でムスリムの隊列を整えられました。左手には小さな丘があり、後に**ジャバル・アッ＝ルマート**（弓兵の丘）として知られるようになります。預言者はその上に五十人の弓兵を配置されました。バラーウ رضى الله عنه は、預言者の命令と、その後に起こったことを語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4043 番

حَدَّثَنَا عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ مُوسَى، عَنْ إِسْرَائِيلَ، عَنْ أَبِي إِسْحَاقَ، عَنِ الْبَرَاءِ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَقِينَا الْمُشْرِكِينَ يَوْمَئِذٍ، وَأَجْلَسَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم جَيْشًا مِنَ الرُّمَاةِ، وَأَمَّرَ عَلَيْهِمْ عَبْدَ اللَّهِ وَقَالَ لاَ تَبْرَحُوا، إِنْ رَأَيْتُمُونَا ظَهَرْنَا عَلَيْهِمْ فَلاَ تَبْرَحُوا وَإِنْ رَأَيْتُمُوهُمْ ظَهَرُوا عَلَيْنَا فَلاَ تُعِينُونَا. فَلَمَّا لَقِينَا هَرَبُوا حَتَّى رَأَيْتُ النِّسَاءَ يَشْتَدِدْنَ فِي الْجَبَلِ، رَفَعْنَ عَنْ سُوقِهِنَّ قَدْ بَدَتْ خَلاَخِلُهُنَّ، فَأَخَذُوا يَقُولُونَ الْغَنِيمَةَ الْغَنِيمَةَ. فَقَالَ عَبْدُ اللَّهِ عَهِدَ إِلَىَّ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَنْ لاَ تَبْرَحُوا. فَأَبَوْا، فَلَمَّا أَبَوْا صُرِفَ وُجُوهُهُمْ، فَأُصِيبَ سَبْعُونَ قَتِيلاً، وَأَشْرَفَ أَبُو سُفْيَانَ فَقَالَ أَفِي الْقَوْمِ مُحَمَّدٌ فَقَالَ لاَ تُجِيبُوهُ. فَقَالَ أَفِي الْقَوْمِ ابْنُ أَبِي قُحَافَةَ قَالَ لاَ تُجِيبُوهُ. فَقَالَ أَفِي الْقَوْمِ ابْنُ الْخَطَّابِ فَقَالَ إِنَّ هَؤُلاَءِ قُتِلُوا، فَلَوْ كَانُوا أَحْيَاءً لأَجَابُوا، فَلَمْ يَمْلِكْ عُمَرُ نَفْسَهُ فَقَالَ كَذَبْتَ يَا عَدُوَّ اللَّهِ، أَبْقَى اللَّهُ عَلَيْكَ مَا يُخْزِيكَ. قَالَ أَبُو سُفْيَانَ أُعْلُ هُبَلْ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَجِيبُوهُ. قَالُوا مَا نَقُولُ قَالَ قُولُوا اللَّهُ أَعْلَى وَأَجَلُّ. قَالَ أَبُو سُفْيَانَ لَنَا الْعُزَّى وَلاَ عُزَّى لَكُمْ. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم أَجِيبُوهُ. قَالُوا مَا نَقُولُ قَالَ قُولُوا اللَّهُ مَوْلاَنَا وَلاَ مَوْلَى لَكُمْ. قَالَ أَبُو سُفْيَانَ يَوْمٌ بِيَوْمِ بَدْرٍ، وَالْحَرْبُ سِجَالٌ، وَتَجِدُونَ مُثْلَةً لَمْ آمُرْ بِهَا وَلَمْ تَسُؤْنِي.

訳：

バラーウ رضى الله عنه は言いました。**その日（ウフドで）私たちは多神教徒と対峙した。預言者 ﷺ は弓兵の一隊を配置し、アブドゥッラー（・ブン・ジュバイル）を隊長に任じて言われた。「この場所を離れてはならない。私たちが彼らに勝つのを見ても、ここを離れるな。彼らが私たちに勝つのを見ても、私たちを助けに来るな。」** 戦いが始まる

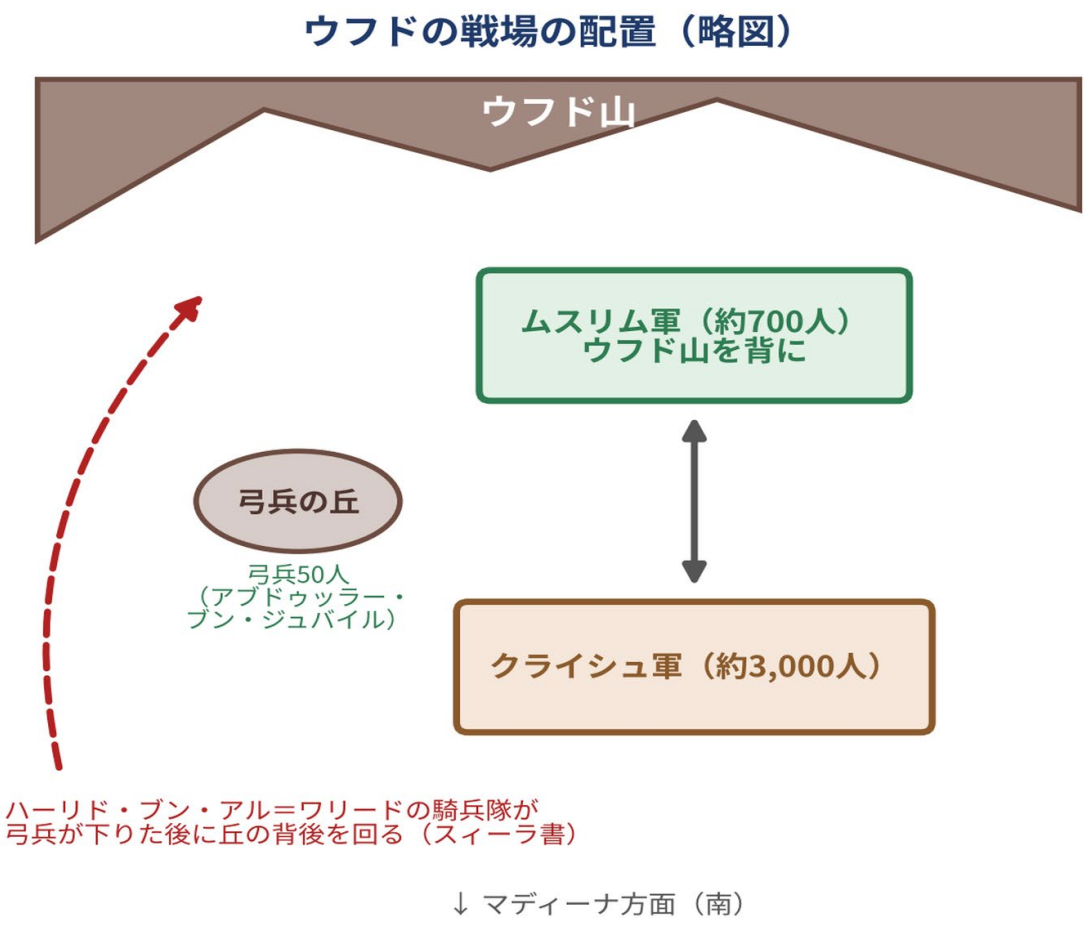
と、敵は逃げ出し、私は彼らの女性たちが山の方へ走っていくのを見た。すると彼ら（弓兵たち）は言い始めた。「**戦利品だ！戦利品だ！**」 アブドゥッラーは言った。「**預言者 ﷺ は私に、この場所を離れるなと命じられた。**」 しかし仲間たちは聞き入れなかった。彼らが拒むと、その顔は（どこへ行けばよいか分からなくなるほど）背けられ、**七十人が殺された。**アブー・スフヤーンは高い所に登って言った。「お前たちの中にムハンマドはいるか？」預言者は言われた。「**彼に答えるな。**」 彼はイブン・アビー・クハーファ（アブー・バクル）について、次にイブン・アル＝ハッターブについて尋ね、「彼らは皆殺された」と言った。ウマルはこらえきれずに言った。「**嘘をつけ、アッラーの敵よ！アッラーはお前を悲しませるものを残しておかれた。**」 アブー・スフヤーンは言った。「フバルよ、高くあれ！」預言者 ﷺ は言われた。「**彼に答えよ。『アッラーこそ至高にして至大』と。**」 アブー・スフヤーンは言った。「我らにはウッザーがいる。お前たちにはウッザーはいない。」預言者は言われた。「**言え。『アッラーは私たちの守護者、お前たちに守護者はいない』と。**」 アブー・スフヤーンは言った。「今日はバドルの日の報いだ。戦いは巡るものだ。」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイドゥッラー・ブン・ムーサー ← イスラーイール ← アブー・イスハーク ← バラーウ・ブン・アーズィブ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ウフドの戦いの章、ハディース第 4043 番；より長い伝承は第 3039 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4043



略図のみ。位置と方向はおおよそのもの。弓兵への命令：『サヒーフ・ブハーリー』4043。

図 3：ウフドの戦場における両軍の配置（略図）。

極めて明確な命令

アッラーの使徒 ﷺ の命令には、解釈の余地がありませんでした。「**私たちが勝つのを見てもこの場所を離れるな。私たちが負けるのを見ても助けに来るな。**」 弓兵の任務は、敵の騎兵からムスリム軍の**背後を守る**ことでした。

教訓：順境での**命令への服従**は、逆境での服従よりも難しいものです。弓兵たちは恐れのために敗れたのではなく、目の前に見えた**戦利品**のために敗れたのです。

アブー・ドゥジャーナの剣

戦いの前、アッラーの使徒 ﷺ は一振りの剣を手に取って尋ねられました。**「誰がこの剣を私から受け取るか？」** 皆が手を伸ばして「私が、私が！」と言いました。預言者は再び尋ねられました。**「誰がその権利を果たして受け取るか？」** 人々は手を引っ込めました。すると**スィマーク・ブン・ハラシャ、アブー・ドゥジャーナ**が「私が受け取り、その権利を果たしましょう」と言い、剣を受け取って多神教徒たちの頭を打ち据えました（『サヒーフ・ムスリム』2470）。

スィーラの注：アブー・ドゥジャーナの赤いターバン

スィーラ書によれば、アブー・ドゥジャーナは頭に**赤いターバン**を巻きました――最後まで戦い抜くという印です。そして両軍の隊列の間を**誇らしげに**歩きました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「それはアッラーが嫌われる歩き方である。このような場所を除いては。」

また彼は、敵兵を煽っていた者に剣を振り上げたところ、それが女性であると分かり、**アッラーの使徒** ﷺ の剣で女性を殺すことのないよう、剣を収めたとも伝えられています。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』ウフドの戦いの章。

教訓：熱意だけでは十分ではありません。アッラーの使徒 ﷺ は、**託されたものの権利を果たす**ことのできる人を求められました。栄誉を望む人は多くても、その責任を担う人は少ないのです。

アッラーの獅子ハムザ

ハムザ・ブン・アブドゥルムッタリブは、アッラーの使徒 ﷺ の叔父であり、シャイバ・ブン・ラビーアを倒したバドルの英雄でした。クライシュ族は彼に深い恨みを抱いていました。その殉教の物語は、彼を殺した**ワフシー**自身が、何年も後に語っています。

ワフシーは**ジュバイル・ブン・ムトイム**の奴隷でした。ジュバイルの叔父はバドルでハムザに殺されていました。ジュバイルは約束しました。「叔父の仇としてハムザを殺せば、お前は自由だ。」ウフドの日、ワフシーは**岩の陰に隠れ**、ハムザが近づくと投げ槍を放ちました。槍はハムザの下腹部に当たり、背中まで貫きました。それが**ハムザの最期**でした（『サヒーフ・ブハーリー』4072）。

ワフシーの入信

同じハディースの中でワフシーは、後に**イスラームに入信し**、アッラーの使徒 ﷺ のもとに来たと語っています。預言者は「お前がワフシーか？お前がハムザを殺したのか？」と尋ね、そして言われました。「**私の前から顔を隠すことはできるか？**」アッラーの使徒 ﷺ が亡くなられた後、ワフシーは**偽預言者ムサイリマ**との戦いに加わり、同じ投げ槍で彼を倒しました――まるで自らの過ちを償うかのように。

教訓：イスラームは、それ以前の**罪を消し去ります**。たとえ預言者の叔父を殺すほどの罪であってもです。しかしアッラーの使徒 ﷺ もまた悲しみを感じる人間でした。赦されはしましたが、ハムザを思い出させる顔を見るのは耐え難かったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

序盤の勝利と試練

戦いの初め、ムスリムは**勝っていました**。クライシュ族の旗手たちは次々と倒され、敵軍は陣地と財産を捨てて退き始めました。バラーウは、クライシュ族の女性たちが山の方へ走るのを見たと述べています（第 5 章）。アッラーはこう言われます。

「アッラーは確かにあなたがたへの約束を果たされた。あなたがたがアッラーの許しにより彼らを打ち倒していた時のことである」『タフスィール・イブン・カスィール』3:152。

3:152 の各部分	起こったこと
「アッラーは約束を果たされた」	序盤の勝利；敵が退く。
「あなたがたは気弱になり、争った」	弓兵たちが、留まるか下りるかで意見が分かれる。
「あなたがたは背いた」	弓兵の多くが丘を離れる。
「現世を望む者もいた」	戦利品を追う。
「アッラーはあなたがたを赦された」	赦しの扉は開かれたまま。

この節は極めて率直です。教友たちの過ちを隠さず、しかし同時にそれを**アッラーの赦し**で覆っています。イブン・マスウードは、この節が啓示されるまで、教友の中に現世を望む者がいるとは思わなかったと語りました（アフマドの伝承、『タフスィール・イブン・カスィール』所収）。

教訓：信仰者にとって最も危険な時は、負けている時ではなく、**勝利目前**の時です。現世が目の前に見え始める時なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

背後からの叫び

弓兵の多くが下りると、**ハーリド・ブン・アル＝ワリード**――当時はまだ多神教徒で、クライシュ族の騎兵隊を率いていました――は丘がほとんど空になったのを見ました。彼は部隊を回り込ませて**背後から攻撃し**、アブドゥッラー・ブン・ジュバイルと、持ち場に残っていた数人の弓兵を殺しました（スィーラ書）。その混乱の中で、胸の痛む出来事が起こりました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4065 番

حَدَّثَنَا عُبَيْدُ اللَّهِ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا أَبُو أُسَامَةَ، عَنْ هِشَامِ بْنِ عُرْوَةَ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ قَالَتْ لَمَّا كَانَ يَوْمَ أُحُدٍ هُزِمَ الْمُشْرِكُونَ، فَصَرَخَ إِبْلِيسُ لَعْنَةُ اللَّهِ عَلَيْهِ أَىْ عِبَادَ اللَّهِ أُخْرَاكُمْ. فَرَجَعَتْ أُولاَهُمْ فَاجْتَلَدَتْ هِيَ وَأُخْرَاهُمْ فَبَصُرَ حُذَيْفَةُ فَإِذَا هُوَ بِأَبِيهِ الْيَمَانِ فَقَالَ أَىْ عِبَادَ اللَّهِ أَبِي أَبِي. قَالَ قَالَتْ فَوَاللَّهِ مَا احْتَجَزُوا حَتَّى قَتَلُوهُ فَقَالَ حُذَيْفَةُ يَغْفِرُ اللَّهُ لَكُمْ. قَالَ عُرْوَةُ فَوَاللَّهِ مَا زَالَتْ فِي حُذَيْفَةَ بَقِيَّةُ خَيْرٍ حَتَّى لَحِقَ بِاللَّهِ. بَصُرْتُ عَلِمْتُ، مِنَ الْبَصِيرَةِ فِي الأَمْرِ، وَأَبْصَرْتُ مِنْ بَصَرِ الْعَيْنِ وَيُقَالُ بَصُرْتُ وَأَبْصَرْتُ وَاحِدٌ.

訳：

アーイシャ رضى الله عنها は言いました。**ウフドの日、多神教徒たちは敗れた。するとイブリース――アッラーが彼を呪われますように――が叫んだ。「アッラーのしもべたちよ、背後に（気をつけよ）！」** そこで前列が引き返し、後列と戦ってしまった。フザイファが見ると、そこには（攻撃されている）父のヤマーンがいた。彼は叫んだ。**「アッラーのしもべたちよ、それは私の父だ！私の父だ！」** アッラーにかけて、彼らは父を殺すまでやめなかった。フザイファは言った。**「アッラーがあなたがたを赦されますように。」**（ウルワは言った。アッラーにかけて、フザイファはアッラーに会うまで、彼らのために赦しを祈り続けた。）

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ウバイドゥッラー・ブン・サイード ← アブー・ウサーマ ← ヒシャーム・ブン・ウルワ ← 父 ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضي الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4065 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4065

「アッラーがあなたがたを赦されますように」

フザイファ・ブン・アル＝ヤマーンは、混乱の中で彼を見分けられなかったムスリム自身によって、父が殺されるのを見ました。彼は怒ることも報復を求めることもなく、こう言いました。「**アッラーがあなたがたを赦されますように。**」 スィーラ書によれば、アッラーの使徒 ﷺ は後にヤマーンのために**血の代償（ディヤ）**を支払おうとされましたが、フザイファはそれをムスリムたちに施しとして与えました。

教訓：丘の上での一つの**服従の過ち**が、戦場で命を奪う混乱を招きました。そしてフザイファのような**赦す心**は、ウフドの日の最も気高い光景の一つです。

「ムハンマドは殺された！」

その混乱の中で、**噂**が広まりました。アッラーの使徒 ﷺ が殺されたというのです。スィーラ書によれば、**イブン・カミア**という多神教徒が預言者を打ち、殺したと思い込んで、その知らせを叫び広めたのです。多くの教友が気力を失い、座り込む者も、マディーナへ退く者もいました。アッラーはこう言われます。

「ムハンマドは一人の使徒に過ぎない。彼以前にも使徒たちは過ぎ去った。もし彼が死ぬか殺されたなら、あなたがたは踵を返すのか」（不信仰へ逆戻りするのか）？『タフスィール・イブン・カスィール』3:144。

この節は、より大きな日のための**備え**となりました。八年後、アッラーの使徒 ﷺ が本当に亡くなり、ウマルがそれを信じようとしなかった時、**アブー・バクル**がこの節を人々に朗誦すると、彼らはまるで初めて聞いたかのようでした（『サヒーフ・ブハーリー』3668）。

知らせを聞いた時の態度	ウフドでの例
気力を失って座り込む	教友の一部は呆然とした（スィーラ書）。
退く	一部は山やマディーナの方へ逃げた（3:153）。
戦い続ける	アナス・ブン・アン＝ナドル：「立ち上がり、預言者が命を捧げたもののために死のう」（スィーラ書）。

スィーラの注：カアブ・ブン・マーリク、預言者を見つける

スィーラ書によれば、**カアブ・ブン・マーリク** رضي الله عنه は、噂の後に最初にアッラーの使徒 ﷺ を見つけた人でした。兜の下で**預言者の両目が輝いている**のを見て、彼は叫びました。「ムスリムたちよ、喜べ！アッラーの使徒 ﷺ はここにおられる！」預言者は、敵に居場所を知られないよう、黙るように合図されました。

教友たちは再び預言者の周りに集まり、**ウフドの山腹**へと移動しました。

参照：
イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』ウフドの戦いの章。

教訓：私たちが崇拝するのは**永遠に生きておられるアッラー**であって、人間ではありません。たとえその人間が、私たちが最も愛する使徒であってもです。この宗教は、それを伝えた方が去った後も残り続けます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの向こうの楽園の香り

敗北のさなかに、一人の教友がアッラーへの**約束を果たしました**。アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه が叔父について語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4048 番

أَخْبَرَنَا حَسَّانُ بْنُ حَسَّانَ، حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ طَلْحَةَ، حَدَّثَنَا حُمَيْدٌ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ عَمَّهُ، غَابَ عَنْ بَدْرٍ فَقَالَ غِبْتُ عَنْ أَوَّلِ قِتَالِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم، لَئِنْ أَشْهَدَنِي اللَّهُ مَعَ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم لَيَرَيَنَّ اللَّهُ مَا أَجِدُّ. فَلَقِيَ يَوْمَ أُحُدٍ، فَهُزِمَ النَّاسُ فَقَالَ اللَّهُمَّ إِنِّي أَعْتَذِرُ إِلَيْكَ مِمَّا صَنَعَ هَؤُلاَءِ ـ يَعْنِي الْمُسْلِمِينَ ـ وَأَبْرَأُ إِلَيْكَ مِمَّا جَاءَ بِهِ الْمُشْرِكُونَ. فَتَقَدَّمَ بِسَيْفِهِ فَلَقِيَ سَعْدَ بْنَ مُعَاذٍ فَقَالَ أَيْنَ يَا سَعْدُ إِنِّي أَجِدُ رِيحَ الْجَنَّةِ دُونَ أُحُدٍ. فَمَضَى فَقُتِلَ، فَمَا عُرِفَ حَتَّى عَرَفَتْهُ أُخْتُهُ بِشَامَةٍ أَوْ بِبَنَانِهِ، وَبِهِ بِضْعٌ وَثَمَانُونَ مِنْ طَعْنَةٍ وَضَرْبَةٍ وَرَمْيَةٍ بِسَهْمٍ.

訳：

アナス رضى الله عنه は、叔父（アナス・ブン・アン＝ナドル）がバドルに参加できず、こう言ったと伝えています。「**私は預言者 ﷺ の最初の戦いに居合わせなかった。もしアッラーが預言者 ﷺ と共に戦うことを私に許されるなら、私が何をするかをアッラーは必ずご覧になるだろう。**」彼はウフドの日に参戦した。人々が退いた時、彼は言った。「**アッラーよ、彼ら（ムスリム）がしたことについてあなたにお詫びし、彼ら（多神教徒）がしたことから私は無縁であることを表明します。**」彼は剣を手に進み、サアド・ブン・ムアーズに出会って言った。「**どこへ行くのか、サアドよ。私はウフドの向こうに楽園の香りをかいでいる。**」彼は殺されるまで進み続けた。彼の姉妹が、ほくろか指先によって見分けるまで、誰も彼だと分からなかった。**その体には、突き傷、切り傷、矢傷が八十以上あった。**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ハッサーン・ブン・ハッサーン ← ムハンマド・ブン・タルハ ← フマイド（アッ＝タウィール） ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4048 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4048

アナスによれば、教友たちは次の節が彼や彼のような人々について啓示されたと考えていました（『サヒーフ・ブハーリー』2805）。「**信仰者たちの中には、アッラーと交わした約束に誠実であった者たちがいる**」『タフスィール・イブン・カスィール』33:23。

アナス・ブン・アン＝ナドルはバドルを逃したことを悔やみ、自分が何をするかをアッラーがご覧になると**約束しました**。ウフドで他の者が退いた時、彼は進み出て**楽園の香りをかぎました**。八十を超える傷は、彼が少しも背を向けなかったことを示しています。

教訓：善行の機会を一つ逃したとしても、絶望してはなりません。**次の機会に向けて決意し**、その決意を誠実に果たすのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

砦で囲まれたアッラーの使徒ﷺ

多くの教友が退いた時、アッラーの使徒 ﷺ のもとには**わずかな**教友だけが残りました。彼らは自らの体を預言者の盾としたのです。アナス رضى الله عنه は**アブー・タルハ**について語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4064 番

حَدَّثَنَا أَبُو مَعْمَرٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْوَارِثِ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الْعَزِيزِ، عَنْ أَنَسٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ لَمَّا كَانَ يَوْمُ أُحُدٍ انْهَزَمَ النَّاسُ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم وَأَبُو طَلْحَةَ بَيْنَ يَدَيِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم مُجَوِّبٌ عَلَيْهِ بِحَجَفَةٍ لَهُ، وَكَانَ أَبُو طَلْحَةَ رَجُلاً رَامِيًا شَدِيدَ النَّزْعِ، كَسَرَ يَوْمَئِذٍ قَوْسَيْنِ أَوْ ثَلاَثًا، وَكَانَ الرَّجُلُ يَمُرُّ مَعَهُ بِجَعْبَةٍ مِنَ النَّبْلِ فَيَقُولُ انْثُرْهَا لأَبِي طَلْحَةَ. قَالَ وَيُشْرِفُ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَنْظُرُ إِلَى الْقَوْمِ، فَيَقُولُ أَبُو طَلْحَةَ بِأَبِي أَنْتَ وَأُمِّي، لاَ تُشْرِفْ يُصِيبُكَ سَهْمٌ مِنْ سِهَامِ الْقَوْمِ، نَحْرِي دُونَ نَحْرِكَ. وَلَقَدْ رَأَيْتُ عَائِشَةَ بِنْتَ أَبِي بَكْرٍ وَأُمَّ سُلَيْمٍ، وَإِنَّهُمَا لَمُشَمِّرَتَانِ أَرَى خَدَمَ سُوقِهِمَا تَنْقُزَانِ الْقِرَبَ عَلَى مُتُونِهِمَا، تُفْرِغَانِهِ فِي أَفْوَاهِ الْقَوْمِ ثُمَّ تَرْجِعَانِ فَتَمْلآَنِهَا، ثُمَّ تَجِيئَانِ فَتُفْرِغَانِهِ فِي أَفْوَاهِ الْقَوْمِ، وَلَقَدْ وَقَعَ السَّيْفُ مِنْ يَدَىْ أَبِي طَلْحَةَ إِمَّا مَرَّتَيْنِ وَإِمَّا ثَلاَثًا.

訳：

アナス رضى الله عنه は言いました。**ウフドの日、人々は退いて預言者 ﷺ から離れたが、アブー・タルハは預言者 ﷺ の前に立ち、革の盾で預言者を守っていた。** アブー・タルハは優れた弓の名手で、その日、弓を二、三張りも折った。矢筒を持った人が通るたびに、預言者 ﷺ は「アブー・タルハのために撒いてやれ」と言われた。預言者 ﷺ が敵を見ようと身を乗り出すと、アブー・タルハは言った。「**私の父母をあなたの身代わりに！身を乗り出さないでください。彼らの矢に当たってしまいます。私の胸をあなたの胸の盾にさせてください。**」私は、アブー・バクルの娘アーイシャとウンム・スライムが衣の裾をたくし上げ、背中に水袋を背負って、（傷ついた）人々の口に水を注ぎ、ま

た戻って水を満たしては注ぐのを見た。アブー・タルハの手からは、剣が二度か三度落ちた。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブー・マアマル ← アブドゥルワーリス ← アブドゥルアズィーズ（・ブン・スハイブ） ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4064 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4064

タルハの手と七人のアンサール

カイス・ブン・アビー・ハーズィムは言いました。「**私はタルハの手が動かなくなっているのを見た。彼はウフドの日、その手で預言者 ﷺ を守ったのである。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4063）。タルハ・ブン・ウバイディッラーは、預言者に向けられた矢や剣を自らの手で受け止めたのです。

アナス・ブン・マーリクはまた、その時アッラーの使徒 ﷺ のもとには**七人のアンサールと二人のクライシュ族**しか残っていなかったと伝えています。敵が迫ると、預言者は言われました。「**彼らを私たちから追い払う者には楽園がある――あるいは、楽園での私の仲間となる。**」 一人のアンサールが進み出て戦い、殺されると、また一人が進み出て、ついに七人全員が倒れました（『サヒーフ・ムスリム』1789）。

教訓：アッラーの使徒 ﷺ への愛は、言葉だけのものではありません。アブー・タルハ、タルハ、そして七人のアンサールは、それを自らの**胸と手と命**で証明したのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版 |

「射よ、サアドよ！」

アッラーの使徒 ﷺ のそばに踏みとどまった弓兵の中に、**サアド・ブン・アビー・ワッカース** رضى الله عنه がいました。教友の中でも屈指の弓の名手です。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4055 番

حَدَّثَنِي عَبْدُ اللَّهِ بْنُ مُحَمَّدٍ، حَدَّثَنَا مَرْوَانُ بْنُ مُعَاوِيَةَ، حَدَّثَنَا هَاشِمُ بْنُ هَاشِمٍ السَّعْدِيُّ، قَالَ سَمِعْتُ سَعِيدَ بْنَ الْمُسَيَّبِ، يَقُولُ سَمِعْتُ سَعْدَ بْنَ أَبِي وَقَّاصٍ، يَقُولُ نَثَلَ لِي النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم كِنَانَتَهُ يَوْمَ أُحُدٍ فَقَالَ ارْمِ فِدَاكَ أَبِي وَأُمِّي.

訳：

サアド・ブン・アビー・ワッカース رضى الله عنه は言いました。**ウフドの日、預言者 ﷺ は私のために矢筒から矢を取り出して言われた。「射よ！私の父母をあなたの身代わりに。」**

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ムハンマド ← マルワーン・ブン・ムアーウィヤ ← ハーシム・ブン・ハーシム・アッ＝サアディー ← サイード・ブン・アル＝ムサイイブ ← サアド・ブン・アビー・ワッカース رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4055 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4055

アリー・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه は言いました。「**私は、預言者 ﷺ がサアド・ブン・マーリク以外の誰かのために、ご自分の父母を（身代わりとして）口にされるのを聞いたことがない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4059）。「**私の父母をあなたの身代わりに**」という言葉は、アラビア語における最高の敬意の表現です。

白い衣の二人の男

サアドはまた言いました。「**ウフドの日、私はアッラーの使徒 ﷺ と共に、預言者を守って戦う二人の男を見た。彼らは白い衣をまとい、激しく戦っていた。私は彼らをその前にも後にも見たことがない。**」（『サヒーフ・ブハーリー』4054）。イマーム・ムスリムはその伝承の中で、彼らが**ジブリールとミーカーイール**であったと述べています。

サアド自身はこう言っていました。「**私はアッラーの道で矢を放った最初のアラブ人である。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3728）。彼は楽園を約束された十人の教友の一人であり、後にイラクの開放を指揮しました。

教訓：最も苦しい時にも、アッラーはご自分の使徒を見捨てられませんでした。弓術のような**技能**も、アッラーのために用いられる時、アッラーの使徒 ﷺ からの称賛の理由となるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

傷を負われたアッラーの使徒 ﷺ

ウフドの日、アッラーの使徒 ﷺ ご自身も**負傷されました**。サフル・ブン・サアド رضى الله عنه は預言者の傷について尋ねられました。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 4075 番

حَدَّثَنَا قُتَيْبَةُ بْنُ سَعِيدٍ، حَدَّثَنَا يَعْقُوبُ، عَنْ أَبِي حَازِمٍ، أَنَّهُ سَمِعَ سَهْلَ بْنَ سَعْدٍ، وَهُوَ يُسْأَلُ عَنْ جُرْحِ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم فَقَالَ أَمَا وَاللَّهِ إِنِّي لأَعْرِفُ مَنْ كَانَ يَغْسِلُ جُرْحَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم وَمَنْ كَانَ يَسْكُبُ الْمَاءَ وَبِمَا دُووِيَ ـ قَالَ كَانَتْ فَاطِمَةُ ـ عَلَيْهَا السَّلاَمُ ـ بِنْتُ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم تَغْسِلُهُ وَعَلِيٌّ يَسْكُبُ الْمَاءَ بِالْمِجَنِّ، فَلَمَّا رَأَتْ فَاطِمَةُ أَنَّ الْمَاءَ لاَ يَزِيدُ الدَّمَ إِلاَّ كَثْرَةً أَخَذَتْ قِطْعَةً مِنْ حَصِيرٍ، فَأَحْرَقَتْهَا وَأَلْصَقَتْهَا فَاسْتَمْسَكَ الدَّمُ، وَكُسِرَتْ رَبَاعِيَتُهُ يَوْمَئِذٍ، وَجُرِحَ وَجْهُهُ، وَكُسِرَتِ الْبَيْضَةُ عَلَى رَأْسِهِ.

訳：

アブー・ハーズィムは、サフル・ブン・サアド رضى الله عنه がアッラーの使徒 ﷺ の傷について尋ねられ、こう答えるのを聞きました。「**アッラーにかけて、私は誰がアッラーの使徒 ﷺ の傷を洗い、誰が水を注ぎ、何で手当てされたかを知っている。** アッラーの使徒 ﷺ の娘ファーティマがそれを洗い、アリー・ブン・アビー・ターリブが盾で水を注いだ。ファーティマは、水がかえって出血を増やすのを見ると、ござの切れ端を取って燃やし、その灰を傷に当てて血を止めた。**その日、預言者の犬歯は折れ、顔は傷つき、兜は頭の上で砕けた。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：クタイバ・ブン・サイード ← ヤアクーブ（・ブン・アブドゥッラフマーン） ← アブー・ハーズィム ← サフル・ブン・サアド رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4075 番。

等級： サヒーフ（真正）—『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4075

「どうして民が成功できようか……」

アナス رضى الله عنه は、預言者が顔の血をぬぐいながらこう言われたと伝えています。**「自分たちの預言者を傷つけ、その歯を折った民が、どうして成功できようか。彼は彼らをアッラーへと招いているというのに。」** そこでアッラーは次の節を啓示されました（『サヒーフ・ムスリム』1791）。

「（ムハンマドよ）その事柄について、あなたには何の権限もない」『タフスィール・イブン・カスィール』3:128。

この節は、人々の運命がアッラーの御手にあることを教えています。実際、ウフドで預言者と戦った多くの者——**ハーリド・ブン・アル＝ワリード、アムル・ブン・アル＝アース、アブー・スフヤーン**など——は、後にイスラームに入り、この宗教の守り手となりました。

スィーラの注：ウバイ・ブン・ハラフ

スィーラ書によれば、マッカの多神教徒**ウバイ・ブン・ハラフ**は、自分の馬でアッラーの使徒 ﷺ を殺すと誓っていました。ウフドの日、彼は預言者に向かって突進しました。アッラーの使徒 ﷺ は一人の教友から槍を受け取り、彼の首に小さな傷を負わせました。ウバイは痛みに叫びながら引き返し、マッカへの帰途で死にました。

学者たちは、ウバイこそが**唯一の人物**であり、アッラーの使徒 ﷺ がご自身の手で殺した者だと述べています。次のアブー・フライラのハディースは、**「アッラーの使徒 ﷺ がアッラーの道で殺した男」**に対するアッラーの激しい怒りに触れています。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；『サヒーフ・ブハーリー』4073。https://sunnah.com/bukhari:4073

アブー・フライラ رضى الله عنه は、預言者がご自分の歯を指さしながら「ご自分の預言者にこのようなことをした民に対するアッラーの怒りは激しい」と言われたと伝えています（『サヒーフ・ブハーリー』4073）。教訓：アッラーの使徒 ﷺ は他の人間と同じように痛みを感じられましたが、それでもご自分の民が導かれることを望み続けられました。

悲しみの後のまどろみ

敗北の後、ムスリム軍の生き残りは**ウフド山の山腹**で、アッラーの使徒 ﷺ のもとに集まりました。アッラーはその様子をこう描かれます。

「あなたがたが誰にも振り向かずに逃げ登っていた時のこと。使徒は後方からあなたがたを呼んでいた」『タフスィール・イブン・カスィール』3:153。

それからアッラーは驚くべき安らぎを下されました。**「その悲しみの後、アッラーはあなたがたに安心を下された。それはあなたがたの一部を包むまどろみであった」**『タフスィール・イブン・カスィール』3:154。

アブー・タルハ رضي الله عنه は言いました。**「私はまどろみに包まれた者の一人で、剣が何度も手から落ちた。落ちては拾い、また落ちては拾った。」**（『サヒーフ・ブハーリー』4068）。

二つの集団（3:154）	その状態
誠実な信仰者	まどろみに包まれる――アッラーからの安心の印。
自分のことばかり考える者	眠れず、アッラーについて悪い想像をする。

アッラーが安らぎとしてまどろみを下されたのは、バドルの夜（戦利品章 8:11）に続いて二度目です。教訓：**確信のある心**は危険の中でも休むことができますが、疑う心は安全な時でも落ち着きません。

丘の上のアブー・スフヤーン

戦いが静まると、**アブー・スフヤーン**は高い所に登り、アッラーの使徒 ﷺ、アブー・バクル、ウマルがまだ生きているかを確かめようと呼びかけました。そのやりとりはバラーウのハディース（第 5 章）に記録されています。

アブー・スフヤーン	ムスリムの返答
「お前たちの中にムハンマドはいるか？」	沈黙――預言者の命令「彼に答えるな」による。
「彼らは皆殺された。」	ウマル：「嘘をつけ、アッラーの敵よ！」
「フバルよ、高くあれ！」	「アッラーこそ至高にして至大。」
「我らにはウッザーがいる。お前たちにはウッザーはいない。」	「アッラーは私たちの守護者、お前たちに守護者はいない。」
「今日はバドルの日の報いだ。」	（スィーラ書：ウマルは答えた。「同じではない。我々の死者は楽園に、お前たちの死者は火獄にいる。」）

注目してください。アッラーの使徒 ﷺ は、問いがご自身と教友に関わる時には**沈黙を守られ**ましたが、アブー・スフヤーンが**偶像を称えた**時には、すぐに答えるよう命じられました。アッラーの栄誉は、自らの身の安全よりも優先されるのです。

教訓：敗れて傷ついた状況にあっても、**タウヒード（神の唯一性）**を貶めることは許されません。そして「フバルよ、高くあれ」と叫んだこのアブー・スフヤーンも、後にマッカ開放の日にイスラームに入りました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ムスアブ・ブン・ウマイル

ムスアブ・ブン・ウマイル رضى الله عنه は、かつてマッカで美しい衣と香水に包まれて裕福に暮らしたクライシュ族の若者でした。イスラームに入った後、彼はそのすべてを捨て、ヒジュラの前にマディーナへ遣わされた**イスラームの最初の使節**となり、ウフドの日には殉教するまで**ムスリムの旗**を掲げていました（スィーラ書）。ハッバーブ رضى الله عنه は彼の死装束について語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4047 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ يُونُسَ، حَدَّثَنَا زُهَيْرٌ، حَدَّثَنَا الأَعْمَشُ، عَنْ شَقِيقٍ، عَنْ خَبَّابٍ ـ رضى الله عنه ـ قَالَ هَاجَرْنَا مَعَ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم نَبْتَغِي وَجْهَ اللَّهِ، فَوَجَبَ أَجْرُنَا عَلَى اللَّهِ، وَمِنَّا مَنْ مَضَى أَوْ ذَهَبَ لَمْ يَأْكُلْ مِنْ أَجْرِهِ شَيْئًا، كَانَ مِنْهُمْ مُصْعَبُ بْنُ عُمَيْرٍ قُتِلَ يَوْمَ أُحُدٍ، لَمْ يَتْرُكْ إِلاَّ نَمِرَةً، كُنَّا إِذَا غَطَّيْنَا بِهَا رَأْسَهُ خَرَجَتْ رِجْلاَهُ، وَإِذَا غُطِّيَ بِهَا رِجْلاَهُ خَرَجَ رَأْسُهُ، فَقَالَ لَنَا النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم غَطُّوا بِهَا رَأْسَهُ، وَاجْعَلُوا عَلَى رِجْلِهِ الإِذْخِرَ ـ أَوْ قَالَ أَلْقُوا عَلَى رِجْلِهِ مِنَ الإِذْخِرِ. وَمِنَّا مَنْ قَدْ أَيْنَعَتْ لَهُ ثَمَرَتُهُ فَهُوَ يَهْدِبُهَا.

訳：

ハッバーブ رضى الله عنه は言いました。**私たちはアッラーの御顔を求めてアッラーの使徒 ﷺ と共に移住した。それゆえ私たちの報奨はアッラーの御許で確かである。私たちの中には、（この世で）その報いを少しも味わわずに亡くなった者がいる。その一人がムスアブ・ブン・ウマイルで、ウフドの日に殺され、一枚の縞模様の毛織物しか残さなかった。** 頭を覆えば足が出て、足を覆えば頭が出た。そこで預言者 ﷺ は言われた。「**その布で頭を覆い、足にはイズヒル草を置きなさい。**」また私たちの中には、実が熟し、それを摘んでいる者もいる。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ユーヌス ← ズハイル ← アル＝アアマシュ ← シャキーク（アブー・ワーイル） ← ハッバーブ・ブン・アル＝アラット رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4047 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4047

アブドッラフマーン・ブン・アウフの涙

何年も後、裕福な教友**アブドッラフマーン・ブン・アウフ**の前に食事が出された時、彼は言いました。「**ムスアブ・ブン・ウマイルは殺された。彼は私より優れていたのに、彼を包むものは一枚の布しかなかった……。私たちの善行の報いが、この世で先に与えられてしまったのではないかと恐れる。**」 そして彼は泣きました（『サヒーフ・ブハーリー』1274）。

バラーウ・ブン・アーズィブ رضى الله عنه は言いました。「**最初に（マディーナの）私たちのもとに来たのは、ムスアブ・ブン・ウマイルとイブン・ウンム・マクトゥームであった。彼らは人々にクルアーンを教えた。**」（『サヒーフ・ブハーリー』3925）。彼がマディーナに蒔いたイスラームの種は、ウフドでアッラーの使徒 ﷺ を守ったアンサールとして実を結んだのです。

教訓：ムスアブは現世の豊かさを捨て、十分な一枚の布すらなく去りました。しかし**その報奨は余すところなく**アッラーの御許に蓄えられています。本当の豊かさとは、残していくものではなく、携えていくものなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

殉教者たちの埋葬

およそ**七十**人の教友がウフドで殉教しました（第5章）。疲れ果て傷ついたムスリムたちは、その戦場で彼らを埋葬しなければなりませんでした。ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما が語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 1343 番

حَدَّثَنَا عَبْدُ اللَّهِ بْنُ يُوسُفَ، حَدَّثَنَا اللَّيْثُ، قَالَ حَدَّثَنِي ابْنُ شِهَابٍ، عَنْ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ كَعْبِ بْنِ مَالِكٍ، عَنْ جَابِرِ بْنِ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ كَانَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم يَجْمَعُ بَيْنَ الرَّجُلَيْنِ مِنْ قَتْلَى أُحُدٍ فِي ثَوْبٍ وَاحِدٍ ثُمَّ يَقُولُ أَيُّهُمْ أَكْثَرُ أَخْذًا لِلْقُرْآنِ. فَإِذَا أُشِيرَ لَهُ إِلَى أَحَدِهِمَا قَدَّمَهُ فِي اللَّحْدِ وَقَالَ أَنَا شَهِيدٌ عَلَى هَؤُلاَءِ يَوْمَ الْقِيَامَةِ. وَأَمَرَ بِدَفْنِهِمْ فِي دِمَائِهِمْ، وَلَمْ يُغَسَّلُوا وَلَمْ يُصَلَّ عَلَيْهِمْ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما は言いました。**預言者 ﷺ はウフドの殉教者を二人ずつ一枚の布にまとめ、「この中でクルアーンをより多く覚えていたのはどちらか？」と尋ねられた。** そのうちの一人が示されると、預言者はその者を墓穴の中で先にし、こう言われた。**「私は審判の日に彼らの証人となる。」** 預言者は、彼らを血のついたまま埋葬するよう命じられた。彼らは洗われず、葬儀の礼拝もされなかった。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：アブドゥッラー・ブン・ユースフ ← アッ＝ライス ← イブン・シハーブ ← アブドゥッラフマーン・ブン・カアブ・ブン・マーリク ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضي الله عنهما。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』葬儀の書、殉教者への礼拝の章、ハディース第 1343 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1343

戦場の殉教者に関する規定	根拠
洗わない	血のついたまま埋葬する（ブハーリー 1343）。
自分の衣で包む	不足のため二人を一枚の布で（ブハーリー 1343）。
クルアーンの民を先に	「クルアーンをより多く覚えていたのは誰か？」（ブハーリー 1343）。
アッラーの使徒 ﷺ が証人となる	「私は審判の日に彼らの証人となる。」

スィーラの注：ハムザを悼むアッラーの使徒 ﷺ の悲しみ

スィーラ書によれば、**ハムザ**の遺体は多神教徒によって損なわれ、ヒンド・ビント・ウトバがその肝臓を噛んだとも言われています。アッラーの使徒 ﷺ は叔父の姿を見て深く悲しまれました。アブー・スフヤーン自身も、バラーウのハディースの中でこう認めています。「**お前たちは（遺体の）損傷を見つけるだろうが、私が命じたものではない。**」（ブハーリー 4043、伝承 3039）。

ヒンドについての詳細はスィーラ書に、一部は『ムスナド・アフマド』に伝えられています。**ヒンドは後にイスラームに入りました。**マッカ開放の日のことです。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；『サヒーフ・ブハーリー』3039。https://sunnah.com/bukhari:3039

一部の家族は殉教者の遺体をマディーナへ運びましたが、アッラーの使徒 ﷺ は彼らを**倒れた場所に戻して埋葬する**よう命じられました。これは『スナン・アビー・ダーウード』とティルミズィーにあるジャービルの伝承です。そのため、ウフドの殉教者たちの墓は今日もその山の麓にあり、その中には**ハムザ**の墓もあります。アル＝ハーキムの伝承では、彼は「**殉教者たちの長**」と呼ばれています。

教訓：悲しみと疲れの中にあっても、アッラーの使徒 ﷺ はなお**クルアーンの民を重んじられました。**墓の中でさえ、彼らが先にされたのです。

ジャービルの父と天使の陰

ウフドの殉教者の一人に、ジャービルの父**アブドゥッラー・ブン・アムル・ブン・ハラーム**がいました。彼は九人の娘と借金を残しました。ジャービル رضى الله عنهما は父の遺体を見た時のことを語っています。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 1244 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ بَشَّارٍ، حَدَّثَنَا غُنْدَرٌ، حَدَّثَنَا شُعْبَةُ، قَالَ سَمِعْتُ مُحَمَّدَ بْنَ الْمُنْكَدِرِ، قَالَ سَمِعْتُ جَابِرَ بْنَ عَبْدِ اللَّهِ ـ رضى الله عنهما ـ قَالَ لَمَّا قُتِلَ أَبِي جَعَلْتُ أَكْشِفُ الثَّوْبَ عَنْ وَجْهِهِ أَبْكِي، وَيَنْهَوْنِي عَنْهُ وَالنَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم لاَ يَنْهَانِي، فَجَعَلَتْ عَمَّتِي فَاطِمَةُ تَبْكِي، فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم تَبْكِينَ أَوْ لاَ تَبْكِينَ، مَا زَالَتِ الْمَلاَئِكَةُ تُظِلُّهُ بِأَجْنِحَتِهَا حَتَّى رَفَعْتُمُوهُ. تَابَعَهُ ابْنُ جُرَيْجٍ أَخْبَرَنِي ابْنُ الْمُنْكَدِرِ سَمِعَ جَابِرًا ـ رضى الله عنه ـ.

訳：

ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما は言いました。**（ウフドで）父が殺された時、私は泣きながら父の顔を覆う布を取った。人々は私を止めたが、預言者 ﷺ は止められなかった。** それから叔母のファーティマも泣いた。預言者 ﷺ は言われた。「**あなたが泣いても泣かなくても、あなたがたが彼を運び上げるまで、天使たちはずっと翼で彼を覆っていた。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド・ブン・バッシャール ← グンダル ← シュウバ ← ムハンマド・ブン・アル＝ムンカディル ← ジャービル・ブン・アブドゥッラー رضى الله عنهما；またイブン・ジュライジ ← イブン・アル＝ムンカディル ← ジャービルによる裏付けもある。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』葬儀の書、ハディース第 1244 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:1244

アッラーは殉教者についてこう言われます。**「アッラーの道で殺された者たちを、死んだと思ってはならない。いや、彼らは主の御許で生きており、糧を与えられている」**『タフスィール・イブン・カスィール』3:169。

スィーラの注：「アッラーがあなたの父に語りかけられた」

ティルミズィーの伝承（第 3010 番、ハサンと評価）によれば、アッラーの使徒 ﷺ は悲しむジャービルに尋ねられました。「アッラーがあなたの父に何と言われたか、知らせようか？」アッラーは帳を隔てずに彼に語りかけ、「願え。与えよう」と言われました。彼は願いました。「私を生き返らせてください。もう一度あなたのために殺されるように。」アッラーは言われました。「彼らが（現世に）戻ることはないと、私はすでに定めている。」そこで彼は、自分たちのことを生きている人々に伝えてほしいと願い、3:169 の節が啓示されたのです。

参照：

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3010（ハサン）。https://sunnah.com/tirmidhi:3010

教訓：アッラーの使徒 ﷺ は**ジャービルが泣くのを止められませんでした。**失ったことへの涙は人間の本性です。しかし預言者はその悲しみを吉報で癒されました。天使たちが彼の父を覆い、殉教者たちは主の御許で生きているのです。

ウフドの戦場の女性たち

ムスリムの女性たちもウフドにいました。クライシュ族の女性たちのように戦いを煽るためではなく、傷ついた人々に**水を与え、手当てをする**ためでした。アナス رضى الله عنه は、**アーイシャとウンム・スライム**が背中に水袋を背負い、傷ついた戦士たちの口に何度も水を注ぐのを見ました（第 12 章、ブハーリー 4064）。

ウマル・ブン・アル＝ハッターブ رضى الله عنه はカリフであった時、マディーナの女性たちに衣を分け与えました。一着の上等な衣が残り、ある人がそれをアッラーの使徒 ﷺ の孫娘であるウマルの妻に与えてはどうかと提案しました。ウマルは言いました。「**ウンム・サリートの方がふさわしい。彼女はウフドの日、私たちのために水袋を運んでくれたのだ。**」（『サヒーフ・ブハーリー』2881）。

スィーラの注：ウンム・ウマーラ（ヌサイバ・ビント・カアブ）

スィーラ書によれば、アンサールの**ウンム・ウマーラ**は水を与えるために出陣しましたが、ムスリムが退いた時、**剣と弓でアッラーの使徒** ﷺ を守り、多くの傷を負いました。この伝承はイブン・サアドの『タバカート』とスィーラ書で有名ですが、『サヒーフ・ブハーリー』と『サヒーフ・ムスリム』には見られません。

参照：

イブン・サアド『大タバカート』；イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』。

スィーラの注：サフィーヤの忍耐

スィーラ書と『ムスナド・アフマド』によれば、ハムザの姉妹**サフィーヤ・ビント・アブドゥルムッタリブ**が兄弟の遺体を見に来ました。アッラーの使徒 ﷺ は彼女の息子**アッ＝ズバイル**に、遺体の様子を見せないよう彼女を引き留めるよう頼まれました。サフィーヤは言いました。「兄弟に起こったことは聞きました。それはアッラーのためです。私は忍耐し、報奨を望みます。インシャー・アッラー。」

彼女はハムザを包むために二枚の布を持って来ました。ハムザのそばには、包む布のない殉教したアンサールの男がもう一人いたので、その布はくじで二人の間に分けられました。

参照：
『ムスナド・アフマド』；イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』。

教訓：水を運ぶという小さな奉仕が、何年も後にウマルによって**覚えられて**いました。アッラーの御許では、小さな貢献など一つもないのです。

ハムラー・アル＝アサド

翌日、アッラーの使徒 ﷺ は、クライシュ族が引き返してマディーナを攻めることを案じられました。預言者は、前日に傷を負った者たちに、再び出陣して敵を追うよう呼びかけられました。アーイシャ رضى الله عنها が語っています。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4077 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدٌ، حَدَّثَنَا أَبُو مُعَاوِيَةَ، عَنْ هِشَامٍ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ عَائِشَةَ ـ رضى الله عنها ـ {الَّذِينَ اسْتَجَابُوا لِلَّهِ وَالرَّسُولِ مِنْ بَعْدِ مَا أَصَابَهُمُ الْقَرْحُ لِلَّذِينَ أَحْسَنُوا مِنْهُمْ وَاتَّقَوْا أَجْرٌ عَظِيمٌ} قَالَتْ لِعُرْوَةَ يَا ابْنَ أُخْتِي كَانَ أَبُوكَ مِنْهُمُ الزُّبَيْرُ وَأَبُو بَكْرٍ، لَمَّا أَصَابَ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم مَا أَصَابَ يَوْمَ أُحُدٍ، وَانْصَرَفَ عَنْهُ الْمُشْرِكُونَ خَافَ أَنْ يَرْجِعُوا قَالَ مَنْ يَذْهَبُ فِي إِثْرِهِمْ. فَانْتَدَبَ مِنْهُمْ سَبْعُونَ رَجُلاً، قَالَ كَانَ فِيهِمْ أَبُو بَكْرٍ وَالزُّبَيْرُ.

訳：

「傷を負った後にもアッラーと使徒の呼びかけに応えた者たち」（イムラーン家章 3:172）という節について、アーイシャ رضى الله عنها はウルワに言いました。**「甥よ、あなたの父ズバイルとアブー・バクルは彼らの中にいた。ウフドの日にアッラーの使徒 ﷺ が災難に遭われ、多神教徒たちが去った時、預言者は彼らが戻って来るのを恐れて言われた。『誰が彼らの跡を追うか？』すると彼らのうち七十人が応えた。」** その中にアブー・バクルとズバイルがいたのです。

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ムハンマド（・ブン・サラーム）← アブー・ムアーウィヤ ← ヒシャーム（・ブン・ウルワ）← 父 ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← アーイシャ رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、ハディース第 4077 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4077

「その知らせは彼らの信仰を増し、彼らは言った。『アッラーは私たちにとって十分であり、最良の管理者である』」（私たちのすべての事柄を委ねる方）」『タフスィール・イブン・カスィール』3:173。

スィーラの注：ハムラー・アル＝アサドの部隊

スィーラ書によれば、ムスリム軍はマディーナから約13キロメートルの**ハムラー・アル＝アサド**まで進み、多くのかがり火を焚いて三日間そこに野営しました。その知らせを聞いたアブー・スフヤーンは、再び攻める**意図を捨て**、マッカへ帰って行きました。

参照：

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；ウィキペディア「Battle of Uhud」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Uhud

アッラーはその話を称賛で締めくくられます。**「彼らはアッラーからの恵みと恩寵を携えて帰り、何の災いも彼らに触れなかった」**『タフスィール・イブン・カスィール』3:174。

教訓：敗北は**絶望**を意味しません。まだ癒えない傷を負いながら、教友たちはアッラーと使徒の呼びかけに応えました。そして「ハスブナッラーフ・ワ・ニウマル・ワキール（アッラーは私たちにとって十分であり、最良の管理者である）」は、脅威に直面した信仰者の唱え言葉となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

「ウフドは私たちを愛する」

ウフドは大きな悲しみの場となりましたが、アッラーの使徒 ﷺ はその山を嫌われませんでした。それどころか、こう言われました。

ハディース ― 『サヒーフ・ブハーリー』第 4083 番

حَدَّثَنِي نَصْرُ بْنُ عَلِيٍّ، قَالَ أَخْبَرَنِي أَبِي، عَنْ قُرَّةَ بْنِ خَالِدٍ، عَنْ قَتَادَةَ، سَمِعْتُ أَنَسًا ـ رضى الله عنه ـ أَنَّ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم قَالَ هَذَا جَبَلٌ يُحِبُّنَا وَنُحِبُّهُ.

訳：

アナス رضى الله عنه は、預言者 ﷺ がこう言われたと伝えています。「**これ（ウフド）は私たちを愛し、私たちも愛する山である。**」

伝承経路： イマーム・ブハーリーの伝承：ナスル・ブン・アリー ← 父 アリー・ブン・ナスル ← クッラ・ブン・ハーリド ← カターダ ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』遠征の書、「ウフドは私たちを愛する」の章、ハディース第 4083 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:4083

ウクバ・ブン・アーミル رضى الله عنه は、ウフドから**八年**後、アッラーの使徒 ﷺ がまるで生者と死者に別れを告げるかのようにウフドの殉教者たちのために祈られたと伝えています。それから預言者は説教壇に上がって言われました。「**私の亡き後、あなたがたがアッラーに並ぶものを置くことを私は恐れない。しかし現世があなたがたを誘惑し、あなたがたがそれを競い求めることを恐れる。**」 ウクバは言いました。それが、私がアッラーの使徒 ﷺ を見た最後でした（『サヒーフ・ブハーリー』4042）。

アナス رضى الله عنه はまた、預言者 ﷺ がアブー・バクル、ウマル、ウスマーンと共にウフドに登られた時、山が揺れたと伝えています。預言者は言われました。「**静ま**

れ、ウフドよ！あなたの上にいるのは、一人の預言者と、一人の誠実な者（スィッディーク）と、二人の殉教者だけである。」（『サヒーフ・ブハーリー』3675）。まさにその通り、ウマルとウスマーンは後に殉教者として亡くなりました。

ウフドについての預言者の最後の警告は、同じ教訓に戻っていきます。**現世の誘惑**です。ウフドでは弓兵たちが戦利品のために下りました。そして預言者は、ご自分の共同体が別の形で同じ過ちを繰り返すことを恐れられたのです。

教訓：試練と悲しみを見届けた場所も、**愛され**続けることができます。ウフドは殉教者たちの忍耐の証人となり、アッラーの使徒 ﷺ がこの山を愛されたことは、試練を満ち足りた目で見ることを私たちに教えています。

ウフドの物語の典拠

ウフドの物語は、等級の異なる三種類の典拠を通して私たちに伝わっています。この電子書籍は、読者が**何が確かなのか**と**何が有名なのか**を見分けられるよう、三つを区別しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの物語の典拠

クルアーン（6）

- 二つの集団が怯みかけた（3:122）
- 「ムハンマドは一人の使徒に過ぎない」（3:144）
- 争い、背いた（3:152）
- 悲しみの後のまどろみ（3:154）
- 「それはあなたがた自身から」（3:165）
- 殉教者は主の御許で生きている（3:169）

真正なハディース（9）

- 剣と牛の夢
- 偽信者の離脱
- 弓兵への命令；アブー・スフヤーン
- 悪魔の叫び；ヤマーン
- アナス・ブン・アン＝ナドル；楽園の香り
- アブー・タルハ、サアド、タルハ；預言者の傷
- ムスアブ；殉教者の埋葬；ジャービルの父
- ワフシーとハムザ
- ハムラー・アル＝アサド；「ウフドは私たちを愛する」

スィーラ書（4）

- 丘の背後のハーリドの騎兵隊
- 預言者を守ったウンム・ウマーラ
- ヒンドとハムザの遺体
- 兵力と馬の数

スィーラ書の話は、関連する章でその位置づけを説明している。

図 4：この電子書籍におけるウフドの物語の典拠の位置づけ。

物語	典拠と等級
二つの集団；序盤の勝利；死の噂；まどろみ	クルアーン（イムラーン家章 3:122、144、152–154）――確実

物語	典拠と等級
弓兵；アブー・スフヤーン；イブリース；アナス・ブン・アン＝ナドル	『サヒーフ・ブハーリー』4043、4065、4048――真正
アブー・タルハ；サアド；預言者の傷；ワフシー	『サヒーフ・ブハーリー』4064、4055、4075、4072――真正
アブー・ドゥジャーナ；七人のアンサール	『サヒーフ・ムスリム』2470、1789――真正
アッラーがジャービルの父に語りかけられた	『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3010――ハサン（良好）
鎧；「預言者にふさわしくない……」	ブハーリーのタアリーク；『ムスナド・アフマド』
丘の背後のハーリド；ウンム・ウマーラ；ヒンド；アブー・ドゥジャーナのターバン	スィーラ書（イブン・イスハーク、イブン・サアド）――有名、伝承経路はさまざま

スィーラ書の話が必ずしも偽りであるわけではありません。信頼されたスィーラ学者たちが伝えたものです。しかし、それはクルアーンや真正なハディースと**同じ等級ではありません**。この電子書籍は、イスラーイーリーヤート（イスラエル伝承）や明らかに偽造された伝承は**含めていません**。

戦いを望んだ若者と障害のある者

ムスリム軍がウフドへ向かう前、アッラーの使徒 ﷺ は隊列を点検されました。その中には、まだ年齢に達していない少年たちもいれば、体の不自由な年配者もいました。この二つの集団は、信仰がマディーナの社会にどれほど深く浸透していたかを示しています。若い者は時が来る前に加わろうとし、体の不自由な者は免除が与えられていても座していることを拒んだのです。

アブドゥッラー・ブン・ウマル：十四歳で断られる

ハディース：十四歳と十五歳

アブドゥッラー・ブン・ウマル رضى الله عنهما は、ウフドの日に十四歳でアッラーの使徒 ﷺ の前に連れて行かれたが、（戦うことを）許されなかったと言いました。その後、ハンダクの日に十五歳で連れて行かれると、許されたのです。

ナーフィウは言いました。私はこのハディースを、カリフであったウマル・ブン・アブドゥルアズィーズに伝えた。彼は「これが子どもと大人の境目である」と言い、総督たちに、十五歳に達した者には俸給を与えるよう書き送った。

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』2664；『サヒーフ・ムスリム』1868。

このハディースは、他の兆候がまだはっきりしない場合の成人年齢について、イスラーム法学上の重要な根拠となっています。またアッラーの使徒 ﷺ が、人を熱意だけで評価されなかったことも示しています。イブン・ウマルの熱意は称賛に値しますが、戦場には身体的な成熟が必要です。少年を断ったことは侮辱ではなく、慈悲だったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ラーフィウ・ブン・ハディージュとサムラ・ブン・ジュンドゥブ

スィーラ書（イブン・ヒシャームとタバリー）によれば、アンサールの少年ラーフィウ・ブン・ハディージュは弓の腕が優れていたため許されました。同じ年頃のサムラ・ブン・ジュンドゥブは断られ、こう言いました。「ラーフィウを許して私を断るのですか。私は相撲なら彼に勝てます。」二人が組み合うとサムラが勝ち、二人とも許されました。この話はスィーラ書で有名ですが、伝承経路はサヒーフの水準には達していないため、**スィーラ書の伝承**として挙げています。

アムル・ブン・アル＝ジャムーフ：不自由な足

アムル・ブン・アル＝ジャムーフ رضى الله عنه は、足の不自由なサラマ族の長老でした。クルアーンによれば、足の不自由な者は戦いに出なくても罪はありません（勝利章 48:17）。息子たちは彼が出陣するのを止めようとしましたが、彼はなお殉教を望みました。

ハディース：健やかな足で楽園を歩く

アブー・カターダ رضى الله عنه は、アムル・ブン・アル＝ジャムーフがアッラーの使徒 ﷺ のもとに来て尋ねたと伝えています。「もし私がアッラーの道で戦って殺されたら、私はこの足で、健やかな姿で楽園を歩くことができるでしょうか？」彼の足は不自由でした。預言者は「そうだ」と答えられました。彼はウフドの日、甥と彼らの奴隷一人と共に殺されました。アッラーの使徒 ﷺ は彼の遺体のそばを通り、「あなたがこの足で、健やかな姿で楽園を歩いているのが見えるようだ」と言われました。預言者は三人を一つの墓に埋葬するよう命じられました。

等級：伝承経路はハサン（良好）—『ムスナド・アフマド』22553。

アムル・ブン・アル＝ジャムーフは、ジャービルの父アブドゥッラー・ブン・アムルと共に埋葬されました（第 19 章）。二人は義理の兄弟であり、親しい友でもあったからです。体の不自由さは高い志を妨げません。アッラーの御許で人の価値を決めるのは、その意図と真剣さなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

教訓

ウフドは、誰にでもそれぞれの持ち場があることを教えています。今日断られた少年は明日の戦士となり、免除を与えられた体の不自由な者もより高い道を選ぶことができます。私たちにとってそれは、若者の熱意を軽んじないこと、そして体の不自由さを、まだできる分野での奉仕をやめる言い訳にしないことを意味します。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの殉教者たち

およそ七十人の教友がウフドで殉教し、その多くはアンサールでした。その一部の物語はすでに前の章で語りました。下の表は、最もよく知られた人物を、それぞれの物語の典拠と共にまとめたものです。

人物	物語の要約	典拠
ハムザ・ブン・アブドルムッタリブ	アッラーの使徒 ﷺ の叔父、「アッラーの獅子」。ワフシーの投げ槍で殺された（第 7 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』4072
ムスアブ・ブン・ウマイル	旗手。体を覆いきれない布で包まれた（第 17 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』1274
アナス・ブン・アン＝ナドル	「ウフドの向こうに楽園の香りをかぐ」。体に八十を超える傷（第 11 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』2805
アブドゥッラー・ブン・アムル（ジャービルの父）	天使の翼に覆われ、アッラーが帳を隔てずに語りかけられた（第 19 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』1244；ティルミズィー 3010
アムル・ブン・アル＝ジャムーフ	足が不自由だったが、健やかな足で楽園を歩くことを望んだ（第 24 章）。	『ムスナド・アフマド』22553（ハサン）
ハンザラ・ブン・アビー・アーミル	「天使に洗われた者（ガスィール・アル＝マラーイカ）」――その遺体は天使に洗われた。	『サヒーフ・イブン・ヒッバーン』7025（ハサン）
ウサイリム（アムル・ブン・サービト）	ウフドの日に入信し、殉教し、一度も礼拝せずに楽園に入った。	『スナン・アビー・ダーウード』2537（ハサン）
アブドゥッラー・ブン・ジュバイル	持ち場に留まり、倒れるまで戦った弓兵隊の隊長（第 5 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』4043
ヤマーン（フザイファの父）	混乱の中でムスリム自身によって殺された（第 9 章）。	『サヒーフ・ブハーリー』4065

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

人物	物語の要約	典拠
サアド・ブン・アッ＝ラビーウ	アッラーの使徒 ﷺ を守るようアンサールに託した最後の言葉。	スィーラ書（イブン・イスハーク；『ムワッタア』にムルサルとして）

ハンザラ：天使に洗われた者

ハンザラ・ブン・アビー・アーミル رضي الله عنه は、ウフドの前夜に結婚したばかりでした。出陣の呼びかけが聞こえると、彼は沐浴する間もなく大汚れ（ジュヌブ）の状態のまま急いで出て、殉教しました。アッラーの使徒 ﷺ は言われました。「あなたがたのこの仲間は、天使たちに洗われている。」妻に尋ねると、彼女は、ハンザラが呼びかけを聞いてジュヌブのまま出て行ったと説明しました。この伝承はイブン・ヒッバーン（『サヒーフ・イブン・ヒッバーン』7025）とアル＝ハーキムが伝え、ハディース学者によって**ハサン**と評価されています。興味深いことに、彼の父アブー・アーミル「修道士（アッ＝ラーヒブ）」は、同じ日にクライシュ族の側にいました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウサイリム：一度の礼拝もなく楽園へ

ハディース：アムル・ブン・ウカイシュ

アブー・フライラ رضى الله عنه は次のように伝えています。アムル・ブン・ウカイシュはジャーヒリーヤ時代の利息の貸しがあり、それを回収するまではイスラームに入ろうとしなかった。ウフドの日、彼は親族について尋ね、皆ウフドにいると告げられた。そこで彼は鎧を着け、馬に乗って彼らのもとへ向かった。ムスリムたちは彼を見ると「アムルよ、私たちから離れていろ」と言った。彼は「私は信仰した」と答えた。彼は傷を負うまで戦い、家族のもとへ運ばれた。サアド・ブン・ムアーズは彼の姉妹を通して尋ねた。「あなたは自分の民への熱情から、彼らのための怒りから戦ったのか、それともアッラーのためか？」彼は答えた。「いや、アッラーとその使徒のためだ。」そして彼は亡くなり、楽園に入った。彼はアッラーのために一度も礼拝したことがなかった。

等級：ハサン（アルバーニー）—『スナン・アビー・ダーウード』2537。

この話は、礼拝を軽んじてよいという根拠ではありません。行いはその終わりによって評価されることを示しているのです。ウサイリムはイスラームに入るとすぐに、礼拝の時刻が来る前に殉教しました。アブー・フライラ自身、この話に人々の注意を引くために、よく「一度も礼拝せずに楽園に入った男について話してみよ」と問いかけていました。

サアド・ブン・アッ＝ラビーウ：最後の言葉

戦いの後、アッラーの使徒 ﷺ は一人の教友を遣わして、サアド・ブン・アッ＝ラビーウ رضى الله عنه を探させました。スィーラ書によれば、彼は殉教者たちの中で息絶えようとしているところを見つかりました。彼は言い残しました。「アッラーの使徒 ﷺ に私の挨拶を伝えてくれ。そして私の民（アンサール）に言ってくれ。あなたがたの中にまばたきする目が一つでも残っているのに、アッラーの使徒 ﷺ が傷つけられるようなことがあれば、アッラーの御許であなたがたに言い訳はない、と。」サアド・ブン・アッ＝ラビーウは、マディーナでアブドゥッラフマーン・ブン・アウフ

と兄弟の契りを結んだアンサールの教友です（第8巻）。この最後の言葉の話は**スィーラ書の伝承**です（イブン・イスハーク；マーリクの『ムワッタア』にムルサルとして）。

教訓

ウフドの殉教者たちの背景はさまざまでした。ハムザやムスアブのようなマッカの名家の人、ハンザラのような新婚の若者、アムル・ブン・アル＝ジャムーフのような足の不自由な年配者、そしてウサイリムのように信仰してわずか数時間の人もいました。彼らを一つにしたのは、アッラーへの誠実さと、その使徒への愛でした。殉教は年齢や家柄を選びません。心を選ぶのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

戒めと赦し

ウフドは英雄の物語であるだけでなく、人間の過ちの物語でもあります。クルアーンは教友たちの過ちを隠しません。はっきりと戒めますが、同じ節の中で赦しを宣言しています。これが、この共同体の最良の世代を育てたアッラーのなさり方なのです。

アッラーが二度宣言された赦し

節	戒め	赦し
イムラーン家章 3:152	アッラーがあなたがたの好むものを見せられた後、あなたがたは気弱になり、争い、背いた。あなたがたの中には現世を望む者もいた。	「だがアッラーは確かにあなたがたを赦された。アッラーは信仰者たちに恵み深い方である。」
イムラーン家章 3:155	両軍が出会った日にあなたがたの中で背を向けた者たちは、彼らが犯した罪の一部のために、悪魔が彼らをつまずかせたのである。	「だがアッラーは確かに彼らを赦された。まことにアッラーはよく赦す方、寛容な方である。」
イムラーン家章 3:159	アッラーの使徒 ﷺ は、彼らに厳しくしないよう命じられた。	「だから彼らを赦し、彼らのために赦しを求め、物事について彼らと協議せよ。」

ウスマーンを弁護したイブン・ウマル

何年も後、ウスマーン・ブン・アッファーン رضى الله عنه に対する騒乱が広がった時、エジプトから来た一人の男が、ウスマーンを問題にしようとイブン・ウマルのもとへやって来ました。イブン・ウマルの答えは、教友たち自身がウフドの節をどう理解していたかを示す手本となっています。

ハディース：ウスマーンについての三つの問い

男はイブン・ウマルに尋ねました。「ウスマーンがウフドの日に逃げたことを知っているか？」彼は「知っている」と答えました。男は尋ねました。「彼がバドルに参加しなかったことを知っているか？」彼は「知っている」と答えました。男はさらに尋ねました。「彼がリドワーンの誓いに居合わせなかったことを知っているか？」彼は「知っている」と答えました。すると男は（満足したかのように）「アッラーフ・アクバル」と言いました。

イブン・ウマルは言いました。「来なさい、説明しよう。彼がウフドの日に逃げたことについては、アッラーが彼を赦されたと私は証言する。彼がバドルに参加しなかったことについては、彼の妻であるアッラーの使徒 ﷺ の娘が病気だったからだ。アッラーの使徒 ﷺ は彼に『あなたにはバドルに参加した者と同じ報奨と分け前がある』と言われた。彼がリドワーンの誓いに居合わせなかったことについては、もしマッカにウスマーンより尊ばれる者がいたなら、アッラーの使徒 ﷺ はその者を遣わされたであろう。預言者はウスマーンを遣わされ、リドワーンの誓いはウスマーンがマッカへ行った後に行われた。アッラーの使徒 ﷺ は右手で『これはウスマーンの手である』と言われ、それをもう一方の手に打ち合わせて『これはウスマーンのためである』と言われたのだ。」それからイブン・ウマルは言いました。「今、この答えを持って帰りなさい。」

等級：サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』4066；『サヒーフ・ブハーリー』3698 も参照。

イブン・ウマルは歴史的事実を否定しませんでした。ウスマーンがウフドの日に退いたことを認めています。しかし彼はその事実をクルアーンの光の中に置きました。アッラーが赦された以上、誰であれそれを蒸し返すのはふさわしくないのです。これが教友たちに対するスンナの民の作法です。彼らが過ちを犯しうる人間であることを認めつつ、アッラーが彼らを嘉し赦されたゆえに彼らを尊ぶのです。

教訓

クルアーンの教友たちへの戒めは、彼らを貶めるためではなく、高めるためのものでした。家庭でも、職場でも、社会でも、私たちはこの方法に倣うことができます。過ちははっきりと指摘し、そして赦しの扉を大きく開くのです。そしてアッラーがある人を赦されたなら、私たちはアッラーよりも厳しい裁き手になってはなりません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

今日のウフド山と弓兵の丘

ウフドは、スィーラに登場する史跡の中でも最も見分けやすい場所の一つです。その山は、アッラーの使徒 ﷺ の時代と同じように今も立っているからです。マディーナを訪れる巡礼者や小巡礼者は、ほぼ必ずそこへ案内されます。

項目	説明
立場	マディーナ市の北。現在は市街地が山の麓まで広がっている。
標高	海抜約 1,077 メートル。周囲の平原からの高さは約 377 メートル。
長さ	東西に約 7.5 キロメートル。赤みを帯びた色。
弓兵の丘	ウフド山の前、戦場の南側にある小さな丘。ジャバル・アッ＝ルマート（弓兵の丘）として知られる。スィーラ書ではアイナインの丘と呼ばれる。
殉教者の墓地	ハムザを含むウフドの殉教者たちが埋葬された、柵で囲まれた区域。
サイイド・アッ＝シュハダー・モスク	墓地の近くにある大きなモスク。「殉教者たちの長」ハムザにちなんで名付けられた。新しい建物は 2017 年ごろに完成。

地理の典拠：Mount Uhud — Wikipedia。高さと長さは現代の概算であり、典拠によって多少異なることがある。

なぜその小さな丘が重要なのか？

弓兵の丘の上に立つと、アッラーの使徒 ﷺ がなぜそこに弓兵隊を置かれたのかを自分の目で理解できます（第 5 章）。その丘は、ムスリムの隊列の背後に通じる道を押さえていました。弓兵たちが下りると、その道が開き、ハーリド・ブン・アル＝ワリードが率いるクライシュ族の騎兵隊がその機会を捉えたのです。その小さな丘とウフド山との距離の近さは、その日の過ちの余地がいかに小さかったかを示しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

殉教者の墓地を訪れる作法

墓参は来世を思い起こすために勧められています。アッラーの使徒 ﷺ ご自身も、八年後にウフドの殉教者たちのもとへ出向き、別れを告げる人のように彼らのために祈られました（『サヒーフ・ブハーリー』4042）。墓参の際に預言者が教えられた祈りの一つはこうです。「この住まいの信仰者とムスリムの方々よ、あなたがたに平安あれ。私たちもインシャー・アッラー、あなたがたの後に続きます。私たちとあなたがたのために、アッラーに無事を願います」（『サヒーフ・ムスリム』975）。

スンナにかなった墓参とは、挨拶をし、祈り、教訓を得て、彼らの物語を思い起こすことです。柵や石をなでること、祝福を求めて土を持ち帰ること、殉教者たちに祈りを捧げることは、アッラーの使徒 ﷺ も教友たちも教えていません。

教訓

今日もそびえ立つウフド山は、大きな教訓の物言わぬ証人です。それを見ることは単なる観光ではなく、自分自身に問いかける機会です。私の人生における「弓兵の丘」はどこにあるのか、そして私は託された場所に今もしっかりと立っているだろうか、と。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ヒジュラ暦 3 年シャウワール月の年表

下の表は、ウフドの出来事を時間の順に並べたものです。日付はスィーラ書（主にイブン・ヒシャームを通じたイブン・イスハーク）によります。戦いの正確な日付についてはスィーラ学者の間で意見が分かれており、有名な説はヒジュラ暦 3 年シャウワール月 15 日の土曜日（625 年 3 月）ですが、7 日とする説もあります。

時期	出来事
バドルの後（ヒジュラ暦 2〜3 年）	クライシュ族は、アブー・スフヤーンの隊商の利益を新たな戦いの費用に充てる（第 1 章）。
ヒジュラ暦 3 年シャウワール月初め	約 3,000 人のクライシュ軍が、同盟者や女性たちと共にマディーナの北へ進み、ウフドの近くに陣を張る。
金曜日	アッラーの使徒 ﷺ が夢を語り、協議される。多数が出陣を選ぶ（第 2 章）。金曜礼拝の後、預言者は鎧を着け、約 1,000 人と共に出陣される。
土曜日の前夜	アッラーの使徒 ﷺ が隊列を点検し、年齢に達していない少年たちを帰される（第 24 章）。
土曜日の夜明け	アブドゥッラー・ブン・ウバイが約 300 人と共に離脱し、残りは約 700 人となる（第 3 章）。
土曜日の朝、シャウワール月 15 日	隊列が整えられ、アブドゥッラー・ブン・ジュバイルの指揮の下、50 人の弓兵が丘の上に配置される（第 5 章）。
戦いの中盤	一騎打ちとムスリムの攻撃。ハムザが倒れる。クライシュ族が退き始める（第 6〜8 章）。
その後	弓兵が下りる。ハーリド・ブン・アル＝ワリードが背後から攻撃する。「ムハンマドは殺された」との噂が広まる（第 9〜10 章）。
試練の頂点	アッラーの使徒 ﷺ が負傷される。教友たちが預言者の周りに砦を築く（第 12〜14 章）。
土曜日の午後	安らぎのまどろみ。アブー・スフヤーンが丘の上から叫ぶ。クライシュ族が引き揚げる（第 15〜16 章）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

時期	出来事
土曜日の夕方	殉教者たちが洗われることなく、ウフドの戦場に埋葬される（第 18 章）。
日曜日、シャウワール月 16 日	アッラーの使徒 ﷺ が、ウフドに参加した者だけを連れてハムラー・アル＝アサドへ出陣される（第 21 章）。
数日後	ムスリムはマディーナへ帰還する。クライシュ族は再び攻めて来ようとはしなかった。
ヒジュラ暦 11 年	アッラーの使徒 ﷺ が、別れを告げる人のようにウフドの殉教者たちを訪ねて祈られる（『サヒーフ・ブハーリー』4042）。

教訓

ウフドの大きな出来事はすべて、二日足らずの間に起こりました。同じ一日の中で、ムスリムは勝利も敗北も、恐れも安らぎも、悲しみも味わったのです。私たちの人生も同じです。状況はたちまち変わりえます。変わらずに残るのは、アッラーの定めに対する私たちの態度だけなのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ウフドの戦いについてよくある質問

この章では、ウフドの戦いについてよく尋ねられる質問に答えます。答えは要約です。詳しくは示された章を参照してください。

1. ウフドの戦いはいつ起こったのか？

ヒジュラ暦 3 年シャウワール月（625 年 3 月）、バドルの一年後です。イブン・イスハークによる有名な説はシャウワール月 15 日の土曜日ですが、7 日とする説もあります（第 28 章）。

2. 両軍の兵力はどれくらいでしたか。

スィーラ書によれば、クライシュ族は約 3,000 人でした。ムスリムは約 1,000 人で出陣しましたが、アブドゥッラー・ブン・ウバイが約 300 人と共に離脱した後、残ったのは約 700 人だけでした（第 3 章）。

3. ムスリムはウフドで負けたのか？

ムスリムは戦いの序盤で勝っていましたが、弓兵が持ち場を離れた後に大きな災難を受けました（イムラーン家章 3:152）。しかしクライシュ族はマディーナに入らず、誰も捕虜にせず、目的を果たさないまま引き揚げました。翌日には、逆にムスリムが彼らをハムラー・アル＝アサドまで追いました。クルアーンはウフドを、信仰者と偽信者を見分けるための試練として描いています（3:140–141、3:166–167）。

4. ウフドの殉教者は何人か？

スィーラ書によれば約七十人で、その多くはアンサールでした（第 18 章と第 25 章）。

5. ヒンド・ビント・ウトバがハムザの肝臓を噛んだというのは本当か？

この話はスィーラ書（イブン・イスハーク）で有名で、イマーム・アフマドの一つの伝承にも見られますが、その伝承経路については**議論があり、一部のハディース学者は弱いと評価しています**。確かなのは、ハムザがワフシーに殺され（『サヒー

フ・ブハーリー』4072）、その遺体が損なわれたことです。ヒンドは後にマッカ開放の日にイスラームに入り、イスラームはそれ以前の罪を消し去りました。

6. ウワイス・アル＝カラニーが、ウフドでアッラーの使徒ﷺの歯が折れたために自分の歯を折ったというのは本当か？

この話は、信頼できるハディース集のどこにも**根拠がありません**。ウワイス・アル＝カラニーは確かに高貴なタービウーン（教友の次の世代）の一人で、『サヒーフ・ムスリム』（2542）にも言及されていますが、歯を折った話には伝承経路がなく、彼に帰することはできません。

7. アッラーの使徒ﷺがご自身の手で殺した唯一の人物は誰か？

スィーラ書によれば、ウバイ・ブン・ハラフがウフドでアッラーの使徒 ﷺ に襲いかかり、預言者が槍で彼を突くと、彼は帰途で死にました。真正なハディースにはこうあります。「アッラーの使徒 ﷺ がアッラーの道で殺した者に対するアッラーの怒りは激しい」（『サヒーフ・ブハーリー』4073）。

8. ウフドの時、ハーリド・ブン・アル＝ワリードはすでにムスリムだったのか？

まだでした。ハーリド・ブン・アル＝ワリードはウフドでクライシュ族の騎兵隊を率いていました。彼はおよそ五年後、マッカ開放の前にイスラームに入り、後に「サイフッラー（アッラーの剣）」と呼ばれました。彼の物語は、今日の敵が明日の兄弟になりうることを示しています。

9. なぜウフドの殉教者たちは洗われず、葬儀の礼拝もされなかったのか？

アッラーの使徒 ﷺ が、彼らを洗わず、葬儀の礼拝もせず、血のついたまま埋葬するよう命じられたからです（『サヒーフ・ブハーリー』1343；第 18 章）。殉教者の血

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

は、審判の日に彼らのための証人となります。これは、戦場の殉教者についてのシャーフィイー派の見解です。

10. アッラーの使徒ﷺは、守りに留まることを好まれたのに、なぜマディーナから出陣されたのか？

協議の決定を尊重されたからです。教友の多数、特にバドルに参加しなかった者たちは出陣を望みました。鎧を着けた後、預言者はそれを撤回されませんでした（第 2 章）。ウフドの後も、アッラーは預言者に協議を続けるよう命じられました（イムラーン家章 3:159）。

11. ハムラー・アル＝アサドへ共に出陣したのは誰か？

ウフドに参加した者だけで、その多くはまだ傷を負っていました。アッラーは彼らを称えられました。「傷を負った後にもアッラーと使徒の呼びかけに応えた者たち」（イムラーン家章 3:172；第 21 章）。

12.「ウフドは私たちを愛する山である」というハディースはたとえなのか？

このハディースは真正です（第 22 章）。多くの学者はこれを文字どおりに理解しています。石がアッラーを讃え（夜の旅章 17:44）、ナツメヤシの幹がアッラーの使徒ﷺに離れられて泣いたように、アッラーは命のないと思われるものにも愛を持たせることがおできになるからです。他の学者は、これをウフドの近くに住む人々の愛のたとえと理解しています。いずれにせよ、この山の特別な地位を示しています。

教訓

ウフドには、真正で心を打つ話が十分にあり、根拠のない話を必要としません。真正なもの、有名なもの、偽りのものを見分けることは、アッラーの使徒ﷺの伝記を誠実に伝えるという託されたものの一部なのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓と結び

ムスリムたちが「この災難はどこから来たのか」と尋ねた時、アッラーは率直にこう答えられました。その災難は「**あなたがた自身から**」**来たものである**『タフスィール・イブン・カスィール』3:165。

教訓	ウフドから
命令への服従	弓兵が下り、勝利が試練に変わる（4043；3:152）
現世への愛の危険	「現世を望む者もいた」（3:152）；預言者の最後の警告（4042）
協議と信頼	戦いの前の協議；その後の協議の命令（3:159）
アッラーの使徒 ﷺ	アブー・タルハ、タルハ、七人のアンサール
私たちはアッラーを崇拝する	「ムハンマドは一人の使徒に過ぎない」（3:144）
殉教者は生きている	天使がジャービルの父を覆う；3:169
倒れた後に立ち上がる	ハムラー・アル＝アサド；「ハスブナッラー」（3:173）

バドルは、数が少なくても勝利はアッラーから来ることを教えました。ウフドは、手の中にすでに勝利があっても、命令に背けば**勝利は失われうる**ことを教えています。どちらも、アッラーがこの共同体のために用意された学び舎なのです。

イムラーン家章におけるウフドの節

節	テーマ
3:121–122	隊列の配置；怯みかけた二つの集団
3:128	人々の事柄はアッラーの御手に

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

節	テーマ
3:139–143	弱気になるな；日々は巡る；試練が見分ける
3:144–148	ムハンマドは一人の使徒に過ぎない；以前の預言者たちの従者の例
3:149–155	序盤の勝利、争い、まどろみ、赦し
3:156–164	アッラーの使徒 ﷺ の優しさ；協議；信頼
3:165–168	「それはあなたがた自身から」；偽信者の態度
3:169–175	殉教者は生きている；ハムラー・アル＝アサド；「ハスブナッラー」

イブン・カスィールは、イムラーン家章の ***3:121*** からおよそ ***3:180*** までの節の多くが、ウフドの戦いとその後の出来事に関係していると述べています。ウフドの伝記と共にこれらの節を読むと、はるかに深い理解が得られます。

私たちの生活の中のウフド

私たち一人ひとりに、自分の「弓兵の丘」があります。私たちに託されたもの――礼拝、家族、仕事、知識です。ウフドの試練とは、現世が目の前に見えた時に**自分の持ち場に留まる**か、それとも下りて追いかけるかということなのです。

そして私たちが倒れた時、ウフドは**帰り道**を教えてくれます。アッラーは教友たちを赦され（3:152）、彼らは翌日ハムラー・アル＝アサドへと立ち上がりました。アッラーに立ち返る限り、過ちは終わりではないのです。

インシャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』は**第 11 巻**へと続きます。ウフドの後からハンダク（部族連合）の戦いまでの出来事です。アッラーこそが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（イムラーン家章 3:121–173；女性章 4:88；戦利品章 8:36；部族連合章 33:23）。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/152

ハディース

『サヒーフ・ブハーリー』1244、1274、1343、2805、2881、3039、3668、3675、3728、3925、4042、4043、4047、4048、4050、4051、4054、4055、4059、4063、4064、4065、4068、4072、4073、4075、4077、4081、4083。https://sunnah.com/bukhari

『サヒーフ・ムスリム』1789、1791、2306、2470。https://sunnah.com/muslim

『ジャーミウ・アッ＝ティルミズィー』3010。https://sunnah.com/tirmidhi:3010

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）――ウフドの戦いとハムラー・アル＝アサドの章。

イブン・サアド『大列伝（タバカート）』。

サフィーウッラフマーン・アル＝ムバーラクプーリー『封印された蜜（アッ＝ラヒーク・アル＝マフトゥーム）』――ウフドの戦いの章。

イブン・ハジャル・アル＝アスカラーニー『ファトフ・アル＝バーリー（サヒーフ・ブハーリー注釈）』――遠征の書。

ウィキペディア「Battle of Uhud」。https://en.wikipedia.org/wiki/Battle_of_Uhud

ウィキペディア「Hamza ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hamza_ibn_Abd_al-Muttalib

ウィキペディア「Mus’ab ibn Umayr」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mus%27ab_ibn_Umayr

ウィキペディア「Nusaybah bint Ka’ab」。https://en.wikipedia.org/wiki/Nusaybah_bint_Ka%27ab

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハディースと追加の典拠

『サヒーフ・ブハーリー』2664（十四歳と十五歳のイブン・ウマル）。https://sunnah.com/bukhari:2664

『ムスナド・アフマド』22553（アムル・ブン・アル＝ジャムーフ）。https://hadithunlocked.com/ahmad:22553

『スナン・アビー・ダーウード』2537（ウサイリム）。https://sunnah.com/abudawud:2537

『サヒーフ・イブン・ヒッバーン』7025（天使に洗われたハンザラ）。https://en.tohed.com/hadith/sahih-ibn-hibban/7025

『サヒーフ・ブハーリー』4066（ウスマーンを弁護したイブン・ウマル）。https://sunnah.com/bukhari:4066

『サヒーフ・ブハーリー』4073（アッラーの使徒 ﷺ が殺した者に対するアッラーの怒り）。https://sunnah.com/bukhari:4073

『サヒーフ・ムスリム』975（墓参の祈り）。https://sunnah.com/muslim:975a

イブン・カスィール『タフスィール』3:155。https://tafsir.app/ibn-katheer/3/155

ウィキペディア「Mount Uhud」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mount_Uhud

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

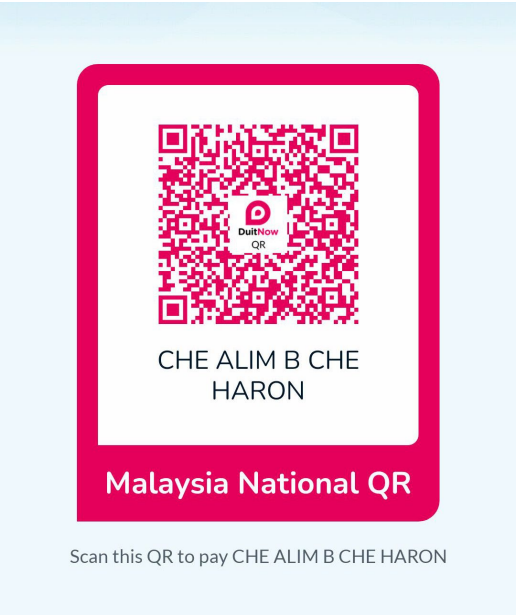
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience